

#### 世界人口白書 2020 制作チーム

This report was developed under the auspices of the UNFPA Division of Communications and Strategic Partnerships.

#### **EDITOR-IN-CHIEF**

Arthur Erken, Director, Division of Communications and Strategic Partnerships

#### **EDITORIAL TEAM**

Editor: Richard Kollodge
Features editor: Rebecca Zerzan
Editorial associate: Katie Madonia
Digital edition manager: Katie Madonia
Digital edition adviser: Hanno Ranck
Publication and web interactive design
and production: Prographics, Inc.

#### **RESEARCH ADVISER**

Gita Sen

#### **UNFPA TECHNICAL ADVISERS**

Satvika Chalasani Nafissatou Diop Mengjia Liang Kathrin Weny

#### **RESEARCHERS AND WRITERS**

Daniel Baker Stephanie Baric Christophe Z. Guilmoto Gretchen Luchsinger Kathleen Mogelgaard Bruce Rasmussen Mindy Roseman

#### ARTWORK AND COMPOSITIONS

Cover design and compositions on pages 8, 14, 40, 64, 94, 115 by Tina Larson. These compositions include artwork and photos from: Andrea Paola Fonseca Chachín, Honduras; Cynthia Oningoi, Kenya; Daniel Quesada-Rebolledo, Horizons of Friendship; Dashni Murad, artist and activist, Iraq; Elizabeta, 15 years old, Bosnia and Herzegovina; Fatma Mahmoud Salama Raslan, Egypt; Lightfield Studios; Sandra Al Moussa, Syria Y-Peer; Sufian Abdul-Mouty, UNFPA Sudan; Plan International; Maia Bobo in partnership with TackleAfrica, Burkina Faso.

Logo and tagline lettering by Joe Nasatka.

Original artwork on pages 24, 58, 88, 104, 117, 126 by Egyptian artist Fatma Mahmoud Salama Raslan.

#### **ACKNOWLEDGMENTS**

UNFPA thanks the following people for sharing glimpses of their lives for this report:

Janoghlan Ilyasov (Azerbaijan); Arelis Cortés (Colombia); Randa Diaa, Dr. Hania Sholkamy (Egypt); Abebech Kabla, Boge Porre (Ethiopia); Jasbeer Kaur, Mandeep Kaur, Pardeep Kaur, Sandeep Kaur (India); Suci Maesaroh (Indonesia); Youngsook Cho, Dr. Eun Ha Chang, Kyung-Jin Oh (Republic of Korea); Rhobi Samwelly (Tanzania); Angeli Gajadhar, Brenda Gopeesingh, Dr. Gabrielle Hosein, Dr. Peter Douglas Weller, Kevin Liverpool, Marcus Kisson (Trinidad and Tobago); Sherry Johnson, Donna Pollard, Sara Tasneem (USA).

UNFPA colleagues and others around the world supported the development of feature stories and other content or provided technical guidance: Kamran Aliyev, Liliana Arias, Esther Bayliss, Nilanjana Bose, Shobana Boyle, May El Sallab, Ingrid Fitzgerald, Rose Marie Gad, Abraham Gelew, Celeste Hibbert, Sina Jones, Diego Muñoz, Meron Negash, Lucky Putra, Dalia Rabie, Aurora Noguera-Ramkissoon, Samidjo, Casey Swegman, Jeanne Smoot and Bright Warren.

UNFPA also thanks the women and girls around the world who shared their thoughts and hand-drawn images expressing views and experiences as survivors of harmful practices. These expressions appear throughout the report.

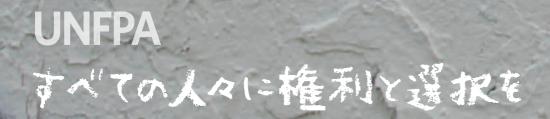
The editors are grateful to the Population and Development Branch of UNFPA for aggregated regional data in the indicators section of this report. Source data for the report's indicators were provided by the Population Division of the United Nations Department of Economic and Social Affairs, the United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization, UNICEF, and the World Health Organization.

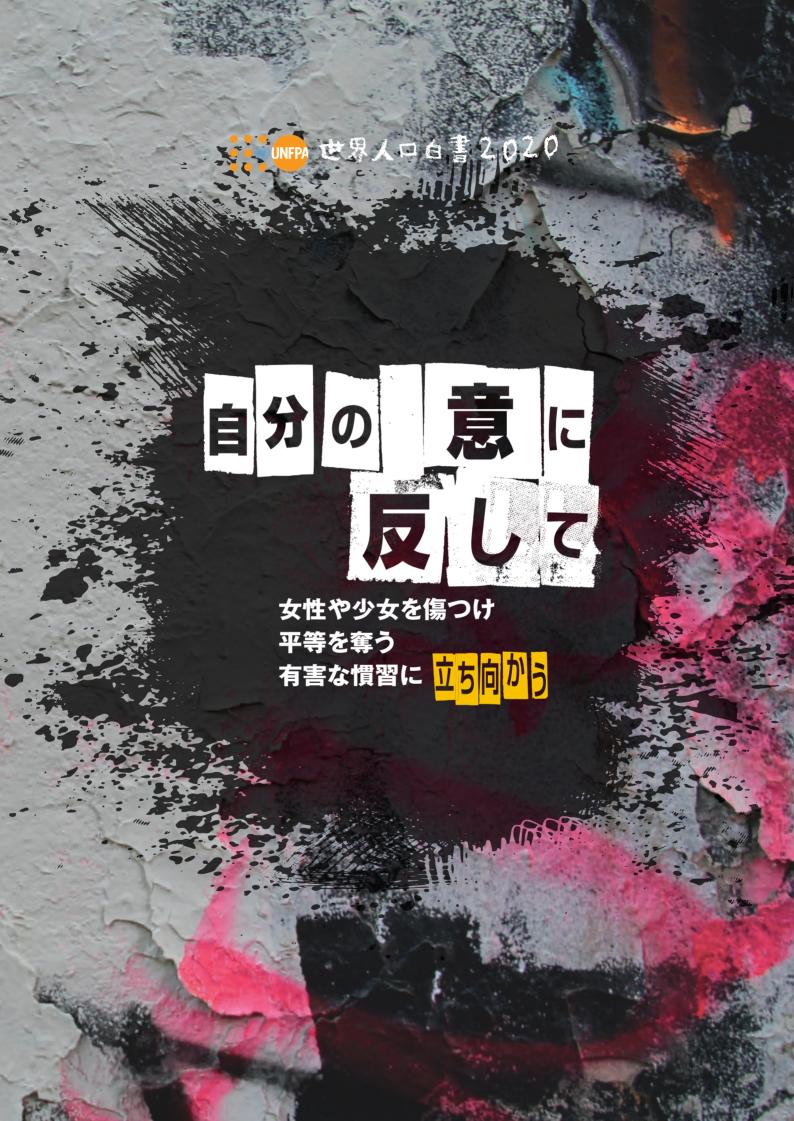
Susan Guthridge-Gould provided invaluable writing and editing services, and Scriptoria communications services reviewed proofs and reconciled citations and references.

#### **MAPS AND DESIGNATIONS**

The designations employed and the presentation of material in maps in this report do not imply the expression of any opinion whatsoever on the part of UNFPA concerning the legal status of any country, territory, city or area or its authorities, or concerning the delimitation of its frontiers or boundaries. A dotted line approximately represents the Line of Control in Jammu and Kashmir agreed upon by India and Pakistan. The final status of Jammu and Kashmir has not been agreed upon by the parties. All references to Kosovo shall be understood to be in the context of UN Security Council resolution 1244 (1999).

**©UNFPA 2020** 





有害な慣覚は 多種多様であっても、 すべてが女性と少女の 人権侵害であることに 変わりはない。 目次

## 強制され、拒絶され、切除され

有害な慣習という密やかな風土的危機 PAGE 6

## 否定され、取り消され、侵害され

危害と人権 PAGE 14

## 望まれず、放置され、消し去られ

男児選好が多くの権利を侵害 PAGE 40

## 傷つけられ、切除され、縫い合わされ

女性性器切除:社会的に是認されているジェンダーに基づく暴力 PAGE 64

## 契約され、差し出され、取引され、売買され

毎日3万3,000人の人生を狂わせる児童婚 PAGE 93

## 挑戦

危害のない世界に向けての行動 PAGE 114

> 「世界人口白書2020」日本語版は、はじめに、第1章、第2章 のうち14-19ページ、別冊資料の抜粋および指標です。 (英語版と対照しやすいように、ページ番号は英語版に合わ せてあります。)

# 

# 信量ではくずために

毎日、何万人もの少女の健康と権利、将来が奪われています。女性性器切除を受ける少女もいます。 子どものうちに「結婚」を強制される少女もいます。そして、女児であるという理由だけで、放置されたり、餓死したりすることもあります。

娘に有害な慣習を強いる親は、善意で行っている場合も多くあります。女性性器切除が広く行われているコミュニティでは、地域の人々に受け入れてもらうためにはこの慣習が必要であるという、間違った認識があるからです。また、子どものうちに結婚させることで、女性の将来が約束されると信じています。身体的、精神的な健康リスクを認識していない親もいます。

善意で行われているとはいえ、学校と友達から引き離されて強制的に結婚させられる少女や、有害な通過儀礼としての性器切除で、生涯にわたって健康問題を抱えねばならない少女にとっては、とても善意とは言えません。

1994年の国際人口開発会議 (ICPD) で、世界各国の政府は、普遍的な性と生殖に関する健康(セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス)の普及を求めるとともに、有害な慣習を止めるよう断固として要求しました。その1年後の第4回世界女性会議でも、各国政府は再び、有害な慣習に終止符を打たねばならないと宣言しています。

いくつかの有害な慣習については、実施率が低下しており、前進が見られているものの、人口の増加により、危害にさらされる少女の数は実際のところ増えています。政府による誓約や決議だけで、有害な慣習を一気になくすことができないのは明らかです。いま私たちに必要なのは、実質的な変革と実質的な成果です。

昨年、ICPD25周年を記念して実施されたナイロビ・サミットで、政府や草の根組織、開発機関、民間セクターの代表は、誓約や決議からさらに前進し、避妊具(薬)の不足、予防できる妊産婦の死亡、そしてジェンダーに基づく暴力と有害な慣習にいずれも終止符を打つことを確約しました。

今年から、2030年までに持続可能な開発目標 (SDGs)の達成を目指す「行動の10年」が 始まります。そこには有害な慣習の撤廃に関するターゲット5.3も含まれています。身体の 健全性(ボディリー・インテグリティ)を脅か されている数百万人の女性と少女を守り、私 たちの目標を達成するために、今こそ力強く 進まなければなりません。私たちは、前進のペースを加速しなければならないのです。

各国政府は、少女と女性を危害から守るという義務を果たす必要があります。「児童の権利に関する条約」をはじめとする人権条約は、各国政府に「子どもの健康を損なう伝統的慣習の廃止を対象に、あらゆる効果的かつ適切な措置を取る」よう命じているのです。

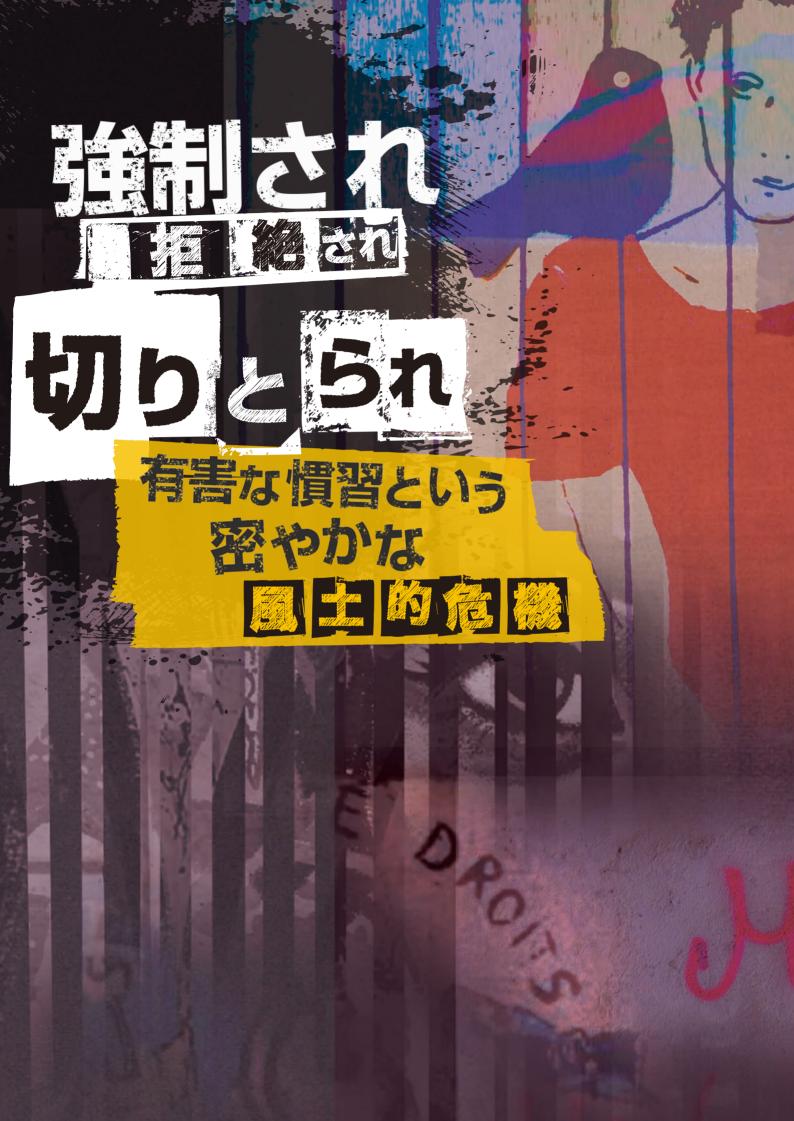
有害な慣習をゼロにすることは、たとえ困難ではあっても、達成することは可能だと私は確信しています。有害な慣習の中には、数世紀も前から続いているものもあります。それでも、変化は起こるでしょう。起こさなくるはなりません。意識と社会的規範を変えるための第一歩は、有害な慣習が娘にどのような弊害をもたらすか、そして娘たちが健康でエンパワーメントを与えられ、彼女たちの権が保障された場合、家庭やコミュニティにどのような恩恵がもたらされるかを、親たちが理解することです。人生のあらゆる段階で、女性と男性、少女と少年が平等になる行動を取れば、長年にわたる危害の伝統を変えられ

ます。また、家父長制に基づく財産・相続制度を解体すれば、児童婚制度の解体にもつながります。私たちには、どのような行動が効果的であるかが明確になってきているのです。さらに、女性性器切除と児童婚という、最も広く蔓延している2つの有害な慣習を撲滅するために必要なコストも既に分かっています。2020年から2030年にかけて、毎年34億ドルを適切に使えば、8,400万人の少女の苦痛を終わらせることができるのです。

知識を武器にし、国際的な人権に関する協定を後ろ盾にし、そして、政府と市民社会による新たなコミットメント(確約)に支えられることで、私たちには、危害を永続化させているあらゆる力に立ち向かい、すべての女性と少女が未来を自由に描ける世界を実現する力があります。

2020年初頭、世界は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の未曽有の世界的大流行(パンデミック)に見舞われ、人命が奪われ、社会や経済が大きな混乱に陥っています。UNFPAはこうした逆境の中でも、私たちが活動する国やコミュニティで、女性と少女の健康と権利を守っていきます。

国連事務次長・ 国連人口基金(UNFPA)事務局長 ナタリア・カネム





彼女は、 取引される商品。

彼女は、 欲望の対象。

彼女は、 放棄されるべき負担。

彼女は、 ただ動かされる 労働者。

# 愛女は、少女。

つまり、少女は固有の人権を 持っているにもかかわらず、 その身体、人生、そして未来は、 彼女自身のものではない。

私たちは、権力と選択の多くの側面が、いまだにジェンダーによって左右される世界に暮らしている。ほとんどの女性と少女は、いくつかの、そして時には多くの、平等に対する何らかの差別的障壁に直面している。多くのジェンダー差別の原因と結果の中でも、有害な慣習は最も陰湿なものの部類に属する。

このような慣習は深刻で、取り返しのつかない害 悪を及ぼすものの、当たり前のこととして、また、時 には有益なこととして受け入れられている。多くの 場合、これらの慣習は人生のスタート時点から、す なわち乳児期や思春期の少女の身体とトラウマ を負った心の中に、無力感と不平等感を植え付け る。それはまた、成人してからも一生の間、教育を 受けたり、安全に出産したり、人間らしい生計を立 てたり、自分の権利のために声を上げたりする可 能性を否定することもある。

児童婚、早婚、強制婚や女性性器切除は、女性 と少女の力と権利の欠如から生じる有害な慣習 の中でも、最も顕著な事例であり、それによって、こ うした欠如がさらに広がるという悪循環が生じる。 有害な慣習にはさまざまな形があるが、先進国、 途上国を問わず、世界のあらゆる地域で見られ る。これらの慣習が全く行われていないと主張で きる国はない。有害な慣習の中には、児童婚など、 少年に関係するものもあるが、少女と女性に圧倒 的に集中し、数億人に影響を与えている。

性と生殖に関する健康を推進する国連機関であるUNFPAは、2030年までに、あらゆる国と地域社会における有害な慣習を撲滅するという目標を掲げており、これは持続可能な開発目標(SDGs)の重要なターゲットにもなっている。それを達成するには、今でも女性と少女に対する暴力を許容し、その権利と身体的自律性を否定する考え方を、急速に変えることが必要となる。さらに、社会規範と密接な関係があり、依然としてジェンダーの差別を反映し、その長期的な被害を永続化させている経済、教育、法律および保健医療制度の改革も必要である。

自分たちの権利に目覚めた若い世代の少女たちは、有害な慣習をこれまでになく拒否しているという兆候が見られる(UNICEF, 2020)。これら慣習に終止符を打つというグローバルな合意は随分以前から存在しており、男性や少年もジェンダーの不平等を疑問視し、すべての人に有益となる変革を主張するようになってきた(Commission on the Status of Women, 2020)。

### 権利の侵害

有害な慣習は広い範囲に及んでいる。国内的または地域的規模で行われ、国際移住に伴って広がるものもあれば、孤立したコミュニティに隠れて存在するものもある(Banda and Atansah, 2016)。本報告書では、国際人権協定および各国の憲法や法律で非難され、セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツと強く関連している3つの有害な慣習、すなわち女性性器切除、児童婚、男児選好に焦点を当てる。有害な慣行の内容は大きく異なっていても、すべては女性と少女の権利の侵害である。

このような慣行は、伝統や宗教、文化を隠れ蓑に 「説明」されることもあれば、表面上は善意で実施されることもある。娘を幼いうちに結婚させること で、少女の将来が経済的に安定したり、性的暴行から守られると、純粋に信じている家族もある。また、女性性器切除には、少女が地域社会で大人として受け入れられるためという意味合いもある。

しかし、すべての有害な慣習は、女性や少女の権 利やウェル・ビーイング(良好な状態)が、男性や少 年のそれよりも劣るという前提の上に成り立ってい る。その結果、女性と少女は、人生の選択肢を狭 められるばかりか、性的、法律的、経済的に男性 の支配下に置かれるような選択肢しか与えられないことが多い。

ほとんどの国が署名している数多くの国際人権 条約やその他の協定では、各国が有害な慣習を 止めさせることを義務付けている。例えば「女性に 対するあらゆる形態の差別撤廃に関する条約」 は、ジェンダーの差別に基づく偏見と慣習を撤廃 するため、あらゆる適切な措置を講じることを定め ている。1994年の世界人口開発会議の行動計画 では、女性性器切除が基本的権利の侵害にあた り、いかなる場所でも禁止しなければならないこと を明確に記している。 有害な慣習は、家族や宗教コミュニティ、医療従事者、企業または国家機関によって行われている。その主体が何であれ、政府はこのような慣習を終わらせる義務がある。法律で正式に禁止することは不可欠ではあるが、それだけでは不十分なことが多い。女性と少女が日常生活で実感できるジェンダーの平等を達成するためには、彼女たちが危害を恐れることなく暮らせる自由を確保するとともに、あらゆる種類の差別と男女間の不平等な力関係を転換させる、一連の措置が必要である。



## 進捗に温度差

児童婚や女性性器切除など、近年継続的な注目を集めるようになってきた有害な慣習は、これまで最も蔓延していた国で減少してきてはいる。しかし、人口が増加しているため、近い将来に実施率が劇的に低下しない限り、今後数十年間でこのような慣習の被害を受ける女性と少女の絶対数は、これまで以上に増えることになる。

Mural painted by Fidel Évora in Largo Intendente, Lisboa, to help raise awareness against female genital mutilation. ©CML | DPC | José Vicente 2014

変化のペースが十分に進まないのと同時に、人口 増加の影響が相まって、ジェンダー平等の進捗状 況には世界的に温度差が生じている。保健医療 や教育へのアクセスでは、ジェンダー平等に向け て大きな前進が見られるものの、深刻な差別や社 会的隔絶は、依然として世界中に根強く残ってい る。

57カ国を対象とした調査によると、15歳から49歳の有配偶女性または内縁関係にある女性のうち、性的関係や避妊具(薬)およびリプロダクティブ・ヘルス・サービスの使用について自ら決定を下



しているのは55%にすぎない(UNFPA, 2020)。 最近発表された別の推計によると、全般的なジェンダー格差を解消するためには、平均で100年近くを要し、経済参加におけるジェンダー格差を解消するためには、257年という驚くべき年月を要する(World Economic Forum, 2020)。前進を大幅に遅らせているのは、人々の考え方である。世界人口の80%を対象とするある調査によると、90%の男性、そして女性も、女性に対して何らかの偏見を持っている(UNDP, 2020)。

ジェンダー差別の背景には、全世界的に進む不 平等と強まる排除が挙げられる。こうした格差は、 社会のあらゆる分野に影響を及ぼし、現行の経 済モデルに根付いており、社会的な分断と緊張の

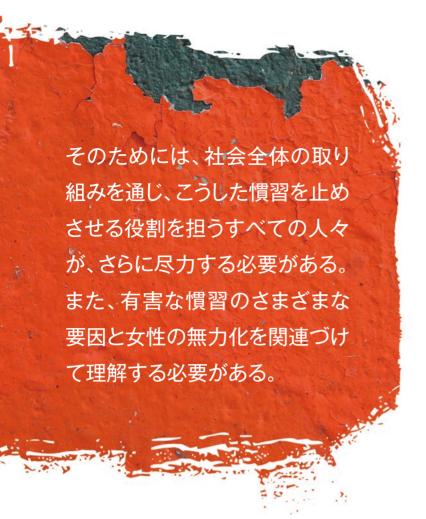
火に油を注いでいる。そして、ジェンダー平等に対する執拗な抵抗が勢いを増す中でも、格差はジェンダーの不平等を持続させ、悪化させている。

一部の地域では、性と生殖に関する健康と権利への制約が広がり、学校での包括的な性教育が制限または廃止されている(Commission on the Status of Women, 2020)。今でも一定職種への女性の就業を法的に禁じている国は100カ国を超える(World Bank, 2018)。最新技術は、多くの恩恵をもたらす一方で、女性と少女が暴力や虐待を受けるリスクを高めており、その影響に対する対策は、ほとんど取られていない(Commission on the Status of Women, 2020)。

有害な慣習は、経済的格差や紛争のほか、気候変動に関連する危機の増大に比例して広がる傾向がある。緊縮政策は、特に貧しいコミュニティや低所得層の女性のための医療その他のサービスに対する公的支出の削減につながりかねない。2021年までに、58億人が暮らす国々が緊縮措置の影響を受けるが、そこには約29億人の女性と少女が含まれ、それは世界の女性人口の4分の3弱に相当する数である(Commission on the Status of Women, 2020)。

## 次々と降りかかる危害

有害な慣習は、たった一つの出来事から始まる。 ある少女は無理やり足を広げられ、性器の一部を 切り取られる。ある幼い少女は、おしゃれな服を着 て花嫁となり、結婚の誓約を棒読みする。しかし、 苦痛やショックはその瞬間だけでなく、次から次へ と広がっていく。有害な慣習は次々と降りかかる 危害へとなっていく。



自分の身体は、まず第一に男性の快楽のため、男性に支配されたりするためにあると教えられた少女や女性は、自分の権利について知ることはまずない。人権の観点から見ると、こうした人権侵害は多くの場面で起きており、平等に扱われ差別されず、身の安全を守り、自律的に意思決定をできる権利が否定されている。また、性と生殖に関する健康、教育、働く機会や豊かな生活を送る権利が否定されることもある。

こうした危害は実際に数値化することが難しいものもあるが、不平等を定着させる差別的なジェンダー規範が根底にあるため、人権侵害には相違ない。そして、それは同意の有無に関係なく、女性と少女に押し付けられているものである。

このような危害には、短期的な影響があるものもあれば長期的に及ぶものもある。また身体的および

精神的な危害もある。女性性器切除を受けた少女はまず、激しい痛み、感染や出血、さらには死のリスクにも襲われる。そして一生を通じ、生殖器官感染症や慢性の腰痛、性交時の痛み、性的快感の喪失、困難な出産など、数多くの苦痛を味わうことがある。また、このような危害を受けなかった少女よりも、心的外傷後ストレス障害(PTSD)などの精神疾患にかかる可能性が高くなる。

早婚を強いられた少女の多くは途中で学校を退学し、所得を得て自立する将来を断たれてしまう。 社会からに孤立し、抑鬱症に陥る可能性もある。 また、早婚の少年とは異なり、望むと望まざるとに かかわらず身体的な準備ができる前に妊娠した 場合には、母子ともに多くのリスクや影響を受け る。

同じく有害な慣習である男児選好が行われている場合には、出産前から男児を望む性選択が始まり、生後、女児は十分に授乳が受けられない、栄養ある食事も与えられない、学校教育や予防接種も十分に受けられないといったことにつながることもある。これによって、女性は成人までに、教育や雇用、政治的権利、家族内での立場という点で不利な状況に置かれることが多い。

有害な慣習は、個人にとって悲劇的な結果をもたらすだけでなく、さらに幅広い問題も引き起こす。 児童婚は、高い出生率や世代を越えた貧困の連鎖と密接に関係している。また、生産的な熟練労働力の育成を阻害するため、経済の健全性にも直接影響を与える。

男児選好により、男女の人口規模に大きな不均衡 が生じた結果、多くの男性がパートナーを見つけ られず、子どもを持つことができない可能性がある。これにより、女性に対する暴力のリスクが高まり、人身売買が助長されたり、その他の危害に対する女性の脆弱性が高まる可能性がある(Kaur, 2013)。しかし何よりも、男児選好とそれに類する行動は、女性と少女に対する否定的な態度を定着させ、さらなる危害の要因となりうる。

### ゼロを目指して

ジェンダーの平等は、持続可能な開発のための2030アジェンダに基づいて合意されたグローバル目標であり、いかなる場所でもすべての女性と少女に対するあらゆる形態の差別、暴力および有害な慣習に終止符を打つことを明確に求めている。2019年に国際人口開発会議(ICPD)25周年を記念して開催されたナイロビ・サミットでは、参加者は、有害な慣習をゼロにすべく努めることを改めて確約した。2020年は、1995年の第4回世界女性会議の25周年であり、活力あるデジタル・ネイティブである新世代のフェミニスト支持者たちが全世界で声を上げるなど、ジェンダーの平等と女性のエンパワーメントを目指す世界的な運動に、新たな機運が生まれている。

有害な慣習は、今なお広く蔓延している女性と少女に対する暴力であり、「密やかな風土的危機」となっている(Commission on the Status of Women, 2020)。女性のうち3分の1は、生涯のある時期に身体的または性的暴力を経験している(Commission on the Status of Women, 2020)。暴力や有害な慣行を取り締まる法律や取り組みは、着実に増えてきているものの、様々な形態をとる暴力は依然として人目につかず、理解されず、問題として認識されてもいない。訓練を受けた医療従事者が行う女性性器切除の「医療行

為化」や、ソーシャルメディアで子どもの花嫁を「売買」したり、リプロダクティブ・ヘルス技術を用いて差別的な男児選好を可能にするといった事例は、昔からある有害な慣習が、現代世界にうまく適応しているという懸念すべき兆候と言える。

世論の変化は希望を与えてくれる。ソーシャルメディア活動により、セクシュアル・ハラスメントや性的虐待にまつわる長い沈黙が打ち破られたことは良く知られている。新たな研究では、女性性器切除が行われている国でも、少女と女性の10人に7人が、この慣習を終わらせるべきだと考えていることが分かった。また、ある調査では、思春期の少女は、年配の女性よりもこの慣習に反対しているという結果がでており、この慣習に対する反対の気運は高まる傾向にある(UNICEF, 2020)。

しかし、有害な慣習をゼロにするためには、さらに 進捗を加速させる必要がある。そのためには、社 会全体の取り組みを通じ、こうした慣習を止めさせ る役割を担うすべての人々が、さらに尽力する必 要がある。また、有害な慣習のさまざま要因と女性 の無力化を関連づけて理解する必要がある。地 域社会は、娘たちを守るために一致団結する必 要がある。少女が学校に通って質の高い教育を 受け続け、自分たちの権利と選択肢について理解 し、自らの欲求や要求について自由に語れるよう にならなければならない。家庭内におけるジェンダ ー差別を変えるために、公共サービスの活用によ り、無給の育児・介護と家事が平等に分担される ようになるべきである。一人ひとりの女性は、経済 的にみて、自立、尊厳、選択を基盤とする人間らし い生きがいのある生活を構築する機会を持てるよ うになるべきである。





# 每日、

## 全世界で 数十万人の少女が、

家族や友人、地域社会の 周知と同意のもと、

身体的または 精神的な危害を 加えられている。

この危害は、子どもから大人への通過儀礼として正当化された性器の切除という形を取ることがある。時には「結婚」の名のもとに、少女を引き渡したり、金銭や貴重品と引き換えに売ったり、取引したりすることもある。また時には、さらに狡猾な形の危害もある。女児よりも男児を選好することで、社会における女性と少女の価値についての否定的な態度をさらに強化し、ジェンダーの不平等を定着させるのである。

これら多岐にわたる有害な慣習には、一つの共 通点がある。それは、どれも人権侵害に相当する ということである。

いくつかの有害な慣習は容認することができず、 政府や地域社会、個人には、これに終止符を打つ 義務があると、国際社会は長い年月をかけて合意 に至った。それでも、こうした慣習は、国内法で禁 じられている国々を含め、全世界で根強く残って いる。これは、人権侵害が続いていることを意味 する。

## 危害に対する理解の深まり

有害な慣習は、少女の身体を傷つけ、侵害する行為にとどまらず、少女にその他多くの権利を享受できなくすることにより、さらなる危害をもたらすものである。その影響は、社会全体に波及し、そもそもの危害の背景となっているジェンダーをめぐる固定観念や不平等をさらに強化する。

国際的な人権専門家にとって、危害は幅広い範囲にわたり様々な意味を持つ。それは単に、ある人を傷つける身体的、精神的または情緒的被害にとどまらない。それは、収入や貯蓄に影響する経済的な被害や、地域社会における立場を損なうような悪い評判を立てられるといった被害よりも深刻である。こうした種類の危害は測定できるが、児童婚や男児選好による危害は、当事者個人をはるかに越えるものであり、その影響は計り知れないからである。

国連は、有害な慣習が「女性と子どもの人権と基本的自由の認識、享受および行使を損なう」目的または効果をもつとみなしていることが、複数の国際条約や宣言から分かる。

この分野でカギを握る「**児童の権利に関する条約**」(通称:子どもの権利条約)および「**女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約**」(通称:女子差別撤廃条約)の2件の主要条約に係る委員会が2014年11月に出した一般的コメントでは、有害な慣習は、少女の「尊厳、身体的・心理社会的・道徳的な健全性と発達、参加、健康、教育および経済的・社会的地位」に「ネガティブな影響」を与えているとしている。

その核心にあるのが差別である。尊厳に対する 危害は、女性と子どもが社会に全面参加したり、 その潜在能力をフルに育成、発揮する可能性を 阻み、制限する差別の一形態であり、人権侵害と 認識されている。

また、そこには多くの共通点がある。有害な慣習は、男性が女性に対する、また少年が少女に対する支配を定着させている社会的規範から生じていることである。そこにあるのは性別やジェンダー、年齢その他の複合的要因に基づく、女性と子どもの不平等という問題である。最終的に、家族やコミュニティの構成員、または社会全体により、同意の有無にかかわらず、有害な慣習は女性と子どもに押し付けられている。

ジェンダーをめぐる固定観念も、危害の一つである。人権の観点から見ると、ジェンダーをめぐる固定観念は「女性と男性が有するべき属性や特徴、または女性と男性が果たすべき役割についての先入観」に基づいており、それは「人々が個人的能力を伸ばし、専門的なキャリアを追求し、その生活や人生設計に関して選択を行う能力を制限する」ゆえに、有害であると言える(Cusak, 2013)。

直接的にも間接的にも差別的侵害が生じるのは、 こうした慣習が、女性と少女が男性や少年と対等 の立場で、その人権を行使することを妨げるから である。

これらの慣習の共通点は、男性と女性、少年と少女は固定的で絶対的な二分法で分かれているという基本的な考えであり、それが階層的な社会的役割や期待値を定め、男性と少年により高い価値を与えることで、女性と少女を従属させるのである。

娘や妻、母親に有害な慣習を押し付けている家族は、善意でしていることが多い。政府には、有害な慣習を撲滅する義務の一環として、家庭内で根強く行われている危害を防止するとともに、少女の運命を結婚と生殖に結びつけている社会的規範と考え方を変える責務がある。

有害な慣習は、平等、安全、健康、自律的意思決 定に関連する幅広い人権を侵害する。

人権侵害と認識されている慣習としては、女性性 器切除、児童婚、出産時の偏った性選択が挙げ られるが、こうした慣習の原因と結果は、他の人 権侵害の証左ともいえる。男児選好はそれ自体、 人権侵害には当たらないが、出産時の偏った性 選択など、人権侵害に相当する有害な慣習を助 長する要因となっている。多くの人権専門家は、 食事や月経のタブーにまつわるその他の慣習に ついても憂慮している。

# 国際人権条約により

- ・魔女であるという非難(魔女狩り)
- ・部族の印の括り付け、烙印、刻み付け または押し付け
- ・唇飾り(唇への皿の挿入)や 首の引延しなどの身体改造
- ・ブレスト・アイロニング (熱した石やハンマーで少女の胸を押しつぶす)
- ・花嫁の対価や持参金をめぐる暴力
- ·児童婚
- ・体罰
- ・名誉の名のもとの犯罪
- ·女性性器切除 (FGM)
- ・出産時の偏った性選択
- ・近親相姦
- ・嬰児殺し
- ・栄養上のタブーと伝統的出産時慣習
- ・女児に対する過少または過大な食料提供
- ・石投げの刑
- ・女性が自らの妊娠を管理できなくする タブーまたは慣習
- ・暴力的な成人の儀式
- · 処女検査
- ・寡婦に関する慣習

# 人権と国連

1948年の世界人権宣言は、今日の政府ができることとできないこと、および、誰一人差別せずすべての人々のためにすべきことを定めている。すべての国が採択した世界人権宣言は、人権とは何か、および、性別やジェンダー、人種または民族的出身、皮膚の色、宗教、国籍、言語、障害、居住地、その他の地位に関係なく、どこに住んでいようとすべての人に人権が保障される根拠について、共通の認識を示している。

人権は法律、慣習国際法、一般原則、その他の 国際法源の形で示され、保障されることが多い。慣習法とは、条約の有無に関係なく、各国 が相互に対して取る行動様式を指す。つまり、 各国の行動を観察し、そこから法則を引き出そ うとする方法である。

世界人権宣言のほか、国連によって定められた以下2つの人権条約を批准した総会決議217 (III) は「国際人権章典」とも呼ばれている。

- ・経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約
- ・市民的及び政治的権利に関する国際規約

加えて、その他多くの協定でも、人権について詳しく説明され、明確に定められている。

- ・あらゆる形態の人種差別の撤廃に関する条約
- ・女子に対するあらゆる形態の差別撤廃に関 する条約
- ・拷問及びその他の残虐な、非人道的な又は 品位を傷つける取り扱い又は、刑罰に関す る条約
- ・児童の権利に関する条約
- ・移住労働者とその家族に関する条約
- ・障害者の権利に関する条約
- ・強制失踪に関する条約

条約とは、政府すなわち「締約国」間の契約である。締約国は相互に、条約の条件、すなわち条文について合意する。政府が条約に署名し、これを批准すれば、条約は拘束力を生じ、政府は条約に盛り込まれた権利を擁護、実施することを要求される。

国連の全加盟国は、少なくとも一つの人権条約を批准しており、普遍的かつ相互に依存し、 関連するとみなされるすべての人権を尊重、 擁護、履行する義務を負う。政府がその義務を 果たす方法として、各国の国内法と政策を条約 に盛り込まれた権利義務と整合させることが 挙げられる。

それぞれの条約には、締約国からの報告に基づき、各国の遵守状況を確認する独立した専門家委員会である「条約機関」がある。締約国は、進捗状況とその義務の履行過程で遭遇した障壁について、条約機関に数年毎に報告することを義務づけられている。条約機関は「総括所見」を発表し、各国が人権保障の義務をより良く果たすために取るべき対策を提言する。

また条約機関は「一般的所感」および「一般的 提言」を発表するが、これは、各国政府が条約 に基づく義務についての理解を促すとともに、 条約の意味に関する公式の解釈を提供するも のである。しかし、一般的所感、提言、総括所見 とも、政府が何らかの行動を起こすよう強制す るものではない。むしろ、政府に対して指針を 与えるものであり、国際慣習規範・基準・法律は、これを法源として認識することが増えてきている。

人権規範のもう一つ重要な法源として、1994年にカイロで開かれた国際人口開発会議の行動計画や、1995年に北京で開かれた第4回世界女性会議の行動綱領など、政治的なコンセンサスに基づく合意が挙げられる。これらの合意は、国連持続可能な開発目標(SDGs)とともに、性と生殖に関する健康・権利を含む女性と少女の権利実現と、ジェンダーの平等達成を目指すための共通のグローバルな政策やターゲットを定めている。

# 信島な慣習

# 写 日、 全世界で 数十万人の少女が

家族や友人、地域社会の 周知と同意のもと、

身体的または 精神的な危害を 加えられている。

その影響は、社会全体に波及し、 ジェンダーをめぐる固定観念と不 平等をさらに強めている。

有害な慣習は多岐にわたるが、特に女性性器切除、児童婚、男児選好という3つの慣習は、ほぼ例外なく、人権侵害として非難されながらも、今も根強く蔓延している。

こうした慣習は国境と文化を越えて見られる。具体的な方法は多様であり、少女は乳児期または思春期に性器を切除されることもあれば、レイプから「守る」という口実で、または、取引の一環として結婚させられることもある。また、生まれる前に消し去られたり、たとえ生まれても育児放棄によって死に追いやられることもある。しかし、これらの慣習の起源はほぼ共通している。ジェンダーの不平等と、女性の性と生殖を支配下に置こうとする欲求である。個々の女性や少女に破壊的な危害が加えられるだけでなく、世界全体と将来の世代に及ぶ危害は、さらに深刻であろう。女性と少女の健康、教育、そして人間としての潜在能力の低下は、人類全体の損失となるからである。

しかし私たちには、危害を永続化させるあらゆる力に立ち向かい、すべての女性と少女が自分の未来を自由に 描ける世界を実現する力がある。

# 文生生 行 ()

# 傷つけられ、切除され、縫い合わされ

女性性器切除(Female Genital Mutilation: FGM)とは、医療目的以外で、女性の外性器の一部もしくは全体を切除するか、女性性器に対してその他の損傷を与えることである。

FGM は世界のあらゆる地域で行われ、 現在も 2 億人の女性と少女が 被害を受けている。

FGMは、女性と少女の健康と身体の健全性(ボディリー・インテグリティ)に対する権利、また差別、残虐あるいは人間性を貶めるような扱いから彼女たちを守る権利を侵害するものであり、時にはその命を奪うことさえある。

しかし、それは女性の妊娠・出産の可能性を高める、男性の性的快感を高める、女性の性欲を抑える、宗教的信仰心に叶い、地域社会に受け入れられる、という誤った信念に支えられ、根付いている。それはまた、少女の純潔と名誉、清潔さを保持し、より結婚しやすくなるためのものとして行われている。





# 契約され、差し出され、取引され、売買され

少女が結婚すると、多くの場合、彼女の学校教育はそこで終わってしまう。妊娠・出産が始まる。少女は妊娠が原因で死亡したり、家庭内暴力を受けやすくなる。そして将来への扉は突然閉ざされる。

児童婚はほとんどの国で禁じられているにも関わらず、全世界で毎日33,000件起きている。

## 現在、6 億 5,000 万人の 少女と女性が、子どものうちに 結婚したと推定されている。

親は、娘の将来の生活の糧を確保する手段として早婚を正当化したり、娘を単なる経済的商品として扱ったり、家族の債務または紛争を解消する手段とみなしたりすることもある。娘の安全を守る責任を夫とその家族に負ってもらうことで、早婚は娘を性的暴力から守ると信じ込んでいる親もいる。その夫自身が、性的暴力の原因になるかもしれないという事実は、ほとんど考えられていない。また、危機的状況に置かれた時や避難民としての生活を余儀なくされてしまった際には、児童婚をその対処法とする家庭が増えている。

しかし、この伝統の根底にあるのは通常、少女の身体を将来の夫の所有物および使用物とみなし、その夫のために彼女の処女性を守りたいという欲求である。

# 

## 望まれず、放置され、消し去られ

女児よりも男児に高い価値が与えられると、息子を持たねばならないという圧力が高まる。夫婦は、何とかして女児の出産を避けようとしたり(出産時の偏った性選択)、息子のほうを大事にし、娘の健康やウェル・ビーイングに配慮しないことがある(出産後の性選択)。

男児選好は以前からある傾向だが、少産化は新しい傾向である。現在、ほとんどの女性が産む子どもの数は3人以下であるが、子どもが少ないと、息子が生まれる可能性も低くなる。すでに娘が2人いる親のうち約4分の1は、3人目の女児の出産を避けるため、偏った性選択をする可能性がある。

## 男児選好の結果、 現在 1 億 4,000 万人以上の女児が 「消失」したと推計されている。

この慣習により、妊婦を強制的に中絶させたり、女児を出産した女性を追い出したり排斥したり、また生まれた女児に十分な栄養や教育を与えず予防接種も受けさせない、 といったことが起きている。

男児選好が広がった結果、人口全体の男女比が歪み、男性がパートナー不足に陥ったり、ジェンダーに基づく暴力が悪化している国々もある。

## 強まる反発

国際社会の圧倒的多数が、こうした有害な慣習を容認すべきでないという 見解で一致している。数十年前から採択されてきた国際条約や様々な手段 により、政府や地域社会、個人は、これらの有害な慣習に終止符を打つよう 求められている。

そして、さらにより多くの人々が、これらの慣習による危害について知ることにより、流れは変わりつつある。この20年の間に、FGMが広く行われている国々で、この慣習を廃止させたいと望む少女と女性の割合が倍増している。世界中で、少女たちが結婚について選択権を得られた場合には、結婚を遅らせているという調査結果がある。人権や少女のエンパワーメント、ジェンダー平等に関するメッセージにより、全世界で、娘に教育を続けさせるべきであることを親が理解しつつある。

しかし、こうした進展も、まだ十分とは言えない。人口の増加によって、危害に さらされる少女の数は、実際には増えているからである。また、有害な慣習に 最も効果的な解決策とされる、少女の価値を高め、ジェンダーの平等を確保 するということは、最も理解されにくいものである。

## これからの道のり

有害な慣習に終止符を打つため、国や地域社会が追求すべき明快な道筋がある。有害な慣習を禁じる法律は、重要な措置ではあるが、これは出発点にすぎない。

これらの慣習の影響が最も大きいコミュニティを巻き込むことができれば、有 害な慣習が密かに続くことを防ぐことができる。国の行動計画により、コミュニ ティや地方・宗教指導者、サービス提供者を結束させることで、幅広い支援と 多くの関係者の参画を確保することができる。

そして、考え方を変えるための取り組みも必要である。社会的規範の変革を 図るプログラムは、有害な慣習の撤廃に効果を上げることができ、また実際に 効果を上げているが、これらの慣習だけに焦点を絞ってはならない。むしろ、 女性と少女が置かれた従属的な立場、彼女たちの人権や地位と機会への アクセスをどのように高めるべきかを含め、これに影響をもたらす幅広い課題 に取り組むべきである。

各国政府には重要な責任がある。国は、全国的な女性団体を支援し、女性 担当省庁やジェンダーに関する担当部署などのガバナンスの仕組みを導入 し、差別的法律の撤廃に取り組むことができるはずである。公衆衛生、教育、 その他の機関にも、果たすべき役割がある。

しかしながら「特効薬」はない。私たちは、既に行っている取り組みを加速させ、必要な資金を確保し、確約したことをさらに強化する必要がある。すべての少女の人権や選択肢が保障され、彼女達の身体が完全に自分たちのものとなるまで、私たちは歩みを止めてはならない。

## コロナ禍で高まるリスク

「世界人口白書2020」は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の 世界的大流行(パンデミック)がまだ初期段階にある中で作成された。

白書の発表に際し、今なお続くパンデミックが、全世界での有害な慣習の実施状況にどう影響をしているかを示すデータは、ほとんど存在しない。しかし、確実なことはいくつかある。第一に、児童婚とFGMの撲滅に向けたプログラムの実施が、大幅に遅れをとっている。第二に、コロナ禍による経済の混乱で、少女たちが、これら有害な慣習を含む彼女たちにとって悪影響のある対処法に曝されるリスクが高まっている。

UNFPAにはすでに、いくつかのコミュニティでFGMと児童婚が増えているという第一報が寄せられている。こうした報告は暫定的なものであるが、2020年4月に、UNFPA、アヴェニール・ヘルス社(Avenir Health)、米国のジョンズ・ホプキンス大学、およびオーストラリアのビクトリア大学が共同で実施した、コロナ禍関連の混乱がこれら2つの有害な慣習に及ぼす影響を推定した分析結果とも合致する。

この研究では、コロナ禍によってFGM予防プログラムの実施が2年遅れると、今後10年のうちに、本来であれば避けられたはずのFGMが200万件も生じると推計している。

コロナ禍によって、児童婚を撲滅するための取り組みが平均で1年遅れると少なく推定しても、今後10年のうちに、本来であれば避けられたはずの児童婚がおよそ740万件生じると推計される。加えて、コロナ禍により生じた経済の低迷で、2020年から2030年にかけて、児童婚がさらに560万件増えると見積もられる。よって、COVID-19のパンデミックの影響による児童婚の増加分は、合計1,300万件に上る見込みである。



すべての人々に権利と選択を

#AGAINSTMYWILL | WWW.UNFPA.ORG/SWOP

日本学校				COL							<b>Gliffen</b>	Mary 4		
特別	Da.			4			M all						1.4	
特別											1	13		1000
特別					1									34.5
特別	Secretary and the				+02	- <del></del> -	11 <b>−</b> °r	an in		A II.	7 (= Z)	v		
中国		**************************************	机车	E-+	1			100	<b>71</b> 7		2000		CDL1/D*1=	ᄴᄔᄴᇏ
情報   19		(MMR)	不確実	性の範囲	立会いの		15-45	ラ威の 妊実行	率	家族	計画の	避妊需要の	関する	関する
世界・地域 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		(出生10万対)。	(UI	80%)		No.	(%	6)		アンメ	ットニーズ   尼ニーズ)	充足率 (近代的避妊法)	意思決定 (%)	
世界			400							σ,	割合	(%) <sup>f</sup>	(70)	保障する
特別	243		低	高	100	何らか	かの方法	近代的	的避妊法	To the	(%)'			
特別	Mark .	E COSTA				全昌	有配偶	全昌	有配偶	全昌	有配偶	全昌		
特別							または 内線関係		または 内縁関係		または 内縁関係			
世界	世界/地域	2017	2017	2017	2014–2019	;		2		;		2020	2020	2019
無理地域														
解発性性域 45 396 47 67 67 67 68 79 17 68 9 12 76 54 68 68 68 68 68 68 68 68 68 68 68 68 68	先進地域												_	
大きいき   大きいきいき   大きいきいき   大きいき   大きいきいき   大きいきいきいき   大きいきいき   大きいきいきいきいき   大きいきいきいきいきいきいきいきいきいきいきいきいきいきいきいきいきいきいきい										9			54	
アラブ語画 151 121 20 89 84 83 26 7 89 80 80 80 80 80 80 80 80 80 80 80 80 80									37					
アラブ部回         151         121         208         90         34         83         29         45         10         16         66         一         53           アジア・米平洋         120         108         140         85         52         67         48         62         7         19         80         59         72           東京シアメリカ・カリブ海地域         74         70         80         94         69         75         55         70         8         10         83         74         66           市・中アプリカケスリカ・カリブ海地域         74         70         80         94         55         20         21         17         21         62         75         70           日・日本の大りりできまり         301         43         42         42         18         42         18         72         45         20         21         18         42         18         42         42         42         42         42         42         42         42         42         42         42         42         43         42         42         42         43         40         45         12         47         9         40         42         42	ALMOS BUILDING			TO THE REAL PROPERTY.	- North 14		TEN SERVICE SE	****	-		CUS E NO	NEW YORK IN		
アジア・太平洋 120 108 140 85 52 67 48 62 7 9 80 60 59 72 無ヨーロッパ・中央アジア 20 18 22 99 46 64 36 48 8 12 66 75 82 デテンアメリカ・カリブ海地域 74 70 80 94 50 75 55 70 81 10 83 74 66 東・南アフリカ 391 361 463 64 34 42 31 38 16 21 62 53 75 西・中央アフリカ 77 606 917 55 20 21 17 18 17 22 45 37 70  国・福泉・その他の砂域 21 207 207 201 55 20 21 17 18 17 22 45 37 70  国・福泉・その他の砂域 21 207 207 201 55 20 21 17 18 17 22 45 37 70  アブガニスタン 638 427 1010 59 8 25 16 22 17 9 4 46 6 7 54 70 アブガニスタン 115 8 26 6 8 9 76 6 6 8 9 76 6 6 78 70 アブガニスタン 115 8 26 6 8 9 76 6 6 9 9 6 6 8 9 76 6 9 70 70 アンブガラスター 115 8 26 6 7 30 43 16 15 15 27 36 34 6 2 6 7 70 アンブガラスター 115 8 26 7 36 36 47 16 16 15 15 27 36 34 6 2 6 7 70 アンブガラスター 39 35 43 94 59 16 15 15 27 36 34 6 2 6 7 70 アンボスア・バーブーダ島 42 24 69 100 45 63 42 16 10 13 3 78 6 6 77 アルメニア 26 21 32 100 39 56 20 31 8 11 86 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7		151	101	200	00	0.4	F0	20	45	10	10	GE.		FO
#ヨーロッパ・中央アジア 20 18 22 99 46 64 64 88 8 12 66 75 82 7 7 7 7 7 7 80 80 94 59 75 55 70 8 10 83 74 66 75 7 7 7 7 7 7 80 91 80 94 59 75 55 70 8 10 83 74 66 87 7 7 7 8 7 7 7 8 7 7 7 8 8 8 8 8 8														
ラテンアメリカ・カリブ海地域         74         70         80         94         59         75         55         70         8         10         83         74         66           東・南アフリカ         391         361         463         64         34         42         31         38         16         21         62         53         75           重・中央アリカ         717         608         917         55         20         21         17         18         7         22         45         37         70           国 領域・その他の地域         2017         2017         2018         2007         2007         2008         2008-2018         2018 <td></td>														
乗・高アフリカ 391 361 463 64 34 42 31 38 16 21 62 53 75 17 18 17 22 45 37 70 18 18 17 22 45 37 70 18 18 17 22 45 37 70 18 18 17 22 45 37 70 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18	•													
画・中央アフリカ         717         606         917         55         20         21         17         18         17         22         45         37         70           国・福域・その他の地域         2017         2017         2014         2015         2020         2020         2020         2097-2018														
日報は・その他の地域 207 207 207 207 207 208 2020 2020 2020														
アフガニスタン 638 427 1010 59 18 25 16 22 17 24 46 - 54 Pルバニア 15 8 26 - 30 43 45 5 12 17 9 69 82 Pルバニア 15 64 206 - 35 64 15 15 17 9 69 82 Pルジェリア 112 64 206 - 35 64 15 15 15 27 36 34 62 66 Pンディグア・バーブーダ島 42 24 69 100 45 63 42 61 10 13 78 - 6 Pルジェリア 26 21 32 100 35 59 71 57 67 9 11 84 - 6 Pルジェア 26 5 8 8 97 58 67 58 67 9 11 84 - 6 Pルジェア 26 5 8 8 97 58 67 58 67 9 11 8 11 85 - 6 Pルジェア 26 5 8 8 97 58 67 58 67 8 11 8 11 85 - 6 Pルジェア 26 21 32 90 36 64 70 62 68 8 8 8 9 - 6 Pルゾッグラデシュ 173 131 234 53 54 67 48 57 9 11 59 - 6 Pルゾッグラデシュ 173 131 234 53 54 65 8 77 8 16 8 77 9 11 59 - 6 Pルゾッグラデシュ 173 131 234 53 54 65 8 77 8 16 8 77 9 11 59 - 6 Pルゾッグラデシュ 173 131 234 53 54 65 8 77 8 16 8 77 9 11 75 - 6 Pルゾッグ・ディン 39 7 291 570 78 16 8 13 14 25 31 32 36 9 1 7 9 9 1 7 9 9 1 7 9 9 1 7 9 9 1 7 9 9 1 7 9 9 1 9 1 9 9 1 9 9 1 9 9 1 9 9 1 9 9 1 9 9 1 9 9 1 9 9 1 9 9 1 9 1 9 9 1 9 9 1 9 1 9 9 1 9	8						21						ENERHANDE DE CHESTE	STEED OF THE STEED
アルバニア 15 8 26 - 30 43 4 5 12 17 9 69 82 アルジェリア 112 64 206 - 35 64 31 56 6 9 76 - 6 7 72 37 37 34 62 66 72 77 パープーダ島 42 24 69 100 45 63 42 61 10 13 78 6 7 7 10 10 13 78 6 7 7 10 10 13 78 6 7 7 10 10 13 78 6 7 7 10 10 13 78 7 7 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	国・領域・その他の地域	2017	2017	2017	2014–2019	2	2020	2	020	2	2020	2020	2007–2018	2019
アルヴェリア 112 64 206 - 35 64 31 66 6 9 76 - 6 7 75 66 7 75 75 66 7 75 75 66 7 75 75 75 75 75 75 75 75 75 75 75 75 7	アフガニスタン	638	427	1010	59	18	25	16	22	17	24	46	-	54
アンゴラ 241 167 346 47 16 16 15 15 27 36 34 62 66 アンディグア・バーブーダ島 42 24 69 100 45 63 42 61 10 13 78 — 一					-		43		5	12			69	82
アンティグア・バーブーダ島 42 24 69 100 45 63 42 61 10 13 78 アルゼンチン 39 35 43 94 59 71 57 67 89 11 84 アルゼンチン 39 35 43 94 59 71 57 67 89 11 84 アルゼンチン 26 21 32 100 39 59 20 31 8 12 43 66 87 アルバ	1													-
アルゼンチン 39 35 43 94 59 71 57 67 9 11 84 アルメニア 26 21 32 100 39 59 20 31 8 12 43 66 87 アルバ									15	27			62	66
アルバ														-
アルバ														-
オーストラリア 6 5 8 97 58 67 56 64 8 11 85 オーストリア 5 4 7 98 64 70 62 68 6 8 88 アゼルバイジャン 26 21 32 99 36 56 14 22 9 14 31 バハマ 70 48 110 99 45 67 43 65 9 12 79 バハマ 14 10 21 100 31 67 22 45 5 11 59 バルブラデシュ 173 131 234 53 54 65 48 57 9 11 75 バルブラデシュ 173 131 234 53 54 65 48 57 9 11 75	f	26		32					31		12		66	87
オーストリア 5 4 7 98 64 70 62 68 6 8 88  アゼルバイジャン 26 21 32 99 36 56 14 22 9 14 31 バハマ 70 48 110 99 45 67 43 65 9 12 79 バルウン 14 10 21 100 31 67 22 45 5 11 59 バルボネス 27 17 39 99 50 63 47 60 12 15 75 - 44 ペラルーシ 2 1 4 100 60 70 52 58 6 8 78 - 87 ペルギー 5 4 7 - 59 67 59 66 6 8 90 12 79 ペリーズ 36 26 48 94 44 56 41 53 14 18 71 - 42 ペラン 397 291 570 78 16 18 13 14 25 31 32 36 91 ブータン 183 127 292 96 38 60 37 58 9 13 79 ボルビア 155 113 213 213 72 47 67 35 48 12 16 58 ボルヴァナ 144 124 170 100 56 69 56 68 8 11 86 ボルヴァナ 144 124 170 100 56 69 56 68 8 11 86 ボルヴァナ 144 124 170 100 56 69 56 68 8 11 86 ボルヴァナ 154 14 124 170 100 56 69 56 68 8 11 86 ボルヴァナ 144 124 170 100 56 69 56 68 8 11 86 ボルヴァナ 144 124 170 100 56 69 56 68 8 11 86 ボルヴァナ 144 124 170 100 56 69 56 68 8 11 86 ボルヴァナ 156 113 21 45 100		-											-	-
アゼルバイジャン         26         21         32         99         36         56         14         22         9         14         31         ー         ー           パハマ         70         48         110         99         45         67         43         65         9         12         79         ー         ー           パーレーン         14         10         21         100         31         67         22         45         5         11         59         ー         ー           パングラデシュ         173         131         234         53         54         65         48         57         9         11         75         ー         ー           パレボス         27         17         39         99         50         63         47         60         12         15         75         ー         44           ベラルーシー         2         1         4         100         60         70         52         58         6         8         78         ー         87           ベルギー         5         4         7         -         59         67         59         66         8         8         90<													_	_
パハマ 70 48 110 99 45 67 43 65 9 12 79 パーレーン 14 10 21 100 31 67 22 45 5 11 59 パングラデシュ 173 131 234 53 54 65 48 57 9 11 75 パルパドス 27 17 39 99 50 63 47 60 12 15 75 - 44 ベラルーシ 2 1 4 100 60 70 52 58 6 8 78 - 87 ベルギー 5 4 7 - 59 67 59 66 6 8 90 0 ベリーズ 36 26 48 94 44 56 41 53 14 18 71 - 42 ベナン 397 291 570 78 16 18 13 14 25 31 32 36 91 ブータン 183 127 292 96 38 60 37 58 9 13 79 ボリビア 155 113 213 72 47 67 35 48 12 16 58 ボリエア・ヘルツェゴピナ 10 5 16 100 37 48 18 20 11 14 37 ボリアナ 144 124 170 100 56 69 56 68 8 11 86 ボフラジル 60 58 61 99 65 80 63 77 6 8 89 ブルネイ 31 21 45 100 ブルネイ 320 220 454 80 29 33 28 32 20 24 57 20 72 ブルシジ 548 413 728 85 19 30 16 26 18 29 45 44 64													-	-
パーレーン 14 10 21 100 31 67 22 45 5 11 59 バングラデシュ 173 131 234 53 54 65 48 57 9 11 75 バルパドス 27 17 39 99 50 63 47 60 12 15 75 - 44 ベラルーシ 2 1 4 100 60 70 52 58 6 8 78 - 87 ペルギー 5 4 7 - 59 67 59 66 6 8 90 ベルギー 5 4 7 - 59 67 59 66 6 8 90 ベリーズ 36 26 48 94 44 56 41 53 14 18 71 - 42 ベナン 397 291 570 78 16 18 13 14 25 31 32 36 91 ブータン 183 127 292 96 38 60 37 58 9 13 79 ボルギー 155 113 213 72 47 67 35 48 12 16 58 ボスニア・ヘルツェゴビナ 10 5 16 100 37 48 18 20 11 14 37 ボボニア・ヘルツェゴビナ 10 5 16 100 37 48 18 20 11 14 37 ボボニア・ヘルツェゴビナ 144 124 170 100 56 69 56 68 8 11 86 ブラジル 60 58 61 99 65 80 63 77 6 8 8 89 ブルネイ 31 21 45 100													_	_
パングラデシュ 173 131 234 53 54 65 48 57 9 11 75 バルバドス 27 17 39 99 50 63 47 60 12 15 75 - 44 ベラルーシ 2 1 4 100 60 70 52 58 6 8 78 - 87 ベルギー 5 4 7 - 59 67 59 66 6 8 90 ベリーズ 36 26 48 94 44 56 41 53 14 18 71 - 42 ベナン 397 291 570 78 16 18 13 14 25 31 32 36 91 ブータン 183 127 292 96 38 60 37 58 9 13 79 ボリビア 155 113 213 72 47 67 35 48 12 16 58 ボズニア・ヘルツェゴビナ 10 5 16 100 37 48 18 20 11 14 37 ボゾウナ 144 124 170 100 56 69 56 68 8 11 86 ブジシル 60 58 61 99 65 80 63 77 6 8 89													_	
パルパドス 27 17 39 99 50 63 47 60 12 15 75 - 44 ベラルーシ 2 1 4 100 60 70 52 58 6 8 78 - 87 ※													_	
ベラルーシ       2       1       4       100       60       70       52       58       6       8       78       -       87         ベルギー       5       4       7       -       59       67       59       66       6       8       90       -       -         ベリーズ       36       26       48       94       44       56       41       53       14       18       71       -       42         ベナン       397       291       570       78       16       18       13       14       25       31       32       36       91         ブータン       183       127       292       96       38       60       37       58       9       13       79       -       -         ボリビア       155       113       213       72       47       67       35       48       12       16       58       -       -         ボンワナ・ヘルツェゴビナ       10       5       16       100       37       48       18       20       11       14       37       -       -         ボンワナ・       144       124       170       100       56													_	44
ベルギー 5 4 7 - 59 67 59 66 6 8 90 ベリーズ 36 26 48 94 44 56 41 53 14 18 71 - 42 ベナン 397 291 570 78 16 18 13 14 25 31 32 36 91 ブータン 183 127 292 96 38 60 37 58 9 13 79 ボリビア 155 113 213 72 47 67 35 48 12 16 58 ボズニア・ヘルツェゴビナ 10 5 16 100 37 48 18 20 11 14 37 ボヅワナ 144 124 170 100 56 69 56 68 8 11 86 ボブラジル 60 58 61 99 65 80 63 77 6 8 89 ブルネイ 31 21 45 100	<b>.</b>													
ベリーズ       36       26       48       94       44       56       41       53       14       18       71       -       42         ベナン       397       291       570       78       16       18       13       14       25       31       32       36       91         ブータン       183       127       292       96       38       60       37       58       9       13       79       -       -         ボリビア       155       113       213       72       47       67       35       48       12       16       58       -       -         ボスニア・ヘルツェゴビナ       10       5       16       100       37       48       18       20       11       14       37       -       -         ボツワナ       144       124       170       100       56       69       56       68       8       11       86       -       -         ブルネイ       31       21       45       100       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -														
ベナン       397       291       570       78       16       18       13       14       25       31       32       36       91         ブータン       183       127       292       96       38       60       37       58       9       13       79       -       -         ボリビア       155       113       213       72       47       67       35       48       12       16       58       -       -         ボスニア・ヘルツェゴビナ       10       5       16       100       37       48       18       20       11       14       37       -       -         ボツワナ       144       124       170       100       56       69       56       68       8       11       86       -       -         ブラジル       60       58       61       99       65       80       63       77       6       8       89       -       -         ブルネイ       31       21       45       100       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       -       - <td></td>														
プータン 183 127 292 96 38 60 37 58 9 13 79 ボリビア 155 113 213 72 47 67 35 48 12 16 58 ボスニア・ヘルツェゴビナ 10 5 16 100 37 48 18 20 11 14 37 ボツワナ 144 124 170 100 56 69 56 68 8 11 86 ブラジル 60 58 61 99 65 80 63 77 6 8 89 ブルネイ 31 21 45 100 ブルガリア 10 6 14 100 65 79 50 56 5 7 70 ブルキナファソ 320 220 454 80 29 33 28 32 20 24 57 20 72 ブルンジ 548 413 728 85 19 30 16 26 18 29 45 44 64	,													
ポリビア 155 113 213 72 47 67 35 48 12 16 58 ボスニア・ヘルツェゴビナ 10 5 16 100 37 48 18 20 11 14 37 ボッワナ 144 124 170 100 56 69 56 68 8 11 86 ブラジル 60 58 61 99 65 80 63 77 6 8 89 ブルネイ 31 21 45 100 ブルガリア 10 6 14 100 65 79 50 56 5 7 70 ブルキナファソ 320 220 454 80 29 33 28 32 20 24 57 20 72 ブルンジ 548 413 728 85 19 30 16 26 18 29 45 44 64														-
ポスニア・ヘルツェゴビナ 10 5 16 100 37 48 18 20 11 14 37 ボツワナ 144 124 170 100 56 69 56 68 8 11 86 ブラジル 60 58 61 99 65 80 63 77 6 8 89 ブルネイ 31 21 45 100 ブルガリア 10 6 14 100 65 79 50 56 5 7 70 ブルキナファソ 320 220 454 80 29 33 28 32 20 24 57 20 72 ブルンジ 548 413 728 85 19 30 16 26 18 29 45 44 64														_
ポッワナ 144 124 170 100 56 69 56 68 8 11 86 「フラジル 60 58 61 99 65 80 63 77 6 8 89 ブルネイ 31 21 45 100														-
プラジル 60 58 61 99 65 80 63 77 6 8 89 プルネイ 31 21 45 100	i													-
プルネイ 31 21 45 100													-	-
プルボリア 10 6 14 100 65 79 50 56 5 7 70 ブルキナファソ 320 220 454 80 29 33 28 32 20 24 57 20 72 ブルンジ 548 413 728 85 19 30 16 26 18 29 45 44 64	1												-	-
ブルキナファソ 320 220 454 80 29 33 28 32 20 24 57 20 72 ブルンジ 548 413 728 85 19 30 16 26 18 29 45 44 64						65	79	50	56	5	7	70	-	-
ブルンジ 548 413 728 85 19 30 16 26 18 29 45 44 64													20	72

		- H - /- 401
・サイノミノコ アル・1	1フロタクティフ	・ヘルス/ライツ

	妊産婦死亡率 (MMR) (出生10万対) <sup>2</sup>	不確実	死亡率の 性の範囲 80%)	専門技術者の立会いの下での出産率(%)	73%	・リノL 15-49 女性の避 (%	9歳の 妊実行率		15-49歳 家族 アンメ: (未充)	ス/ライ: 気の女性の 計画の ットニーズ ミニーズ) 割合	7 15-49歳の女性の 避妊需要の 充足率 (近代的避妊法) (%) <sup>}</sup>	SRH/R <sup>*</sup> に 関する 意思決定 (%)	性と生殖に 関する ヘルスケア・ 情報・教育を 保障する
		低	高	(%)	何らか	の方法	近代的	避妊法		%) <sup>f</sup>	(%)	18	法律および規制
					全員	有配偶または内縁関係	全員	有配偶または内縁関係	全員	有配偶または内縁関係	全員		(%)
国・領域・その他の地域	2017	2017	2017	2014–2019	2	020	20	20	2	020	2020	2020	2019
カメルーン	529	376	790	69	26	22	21	17	16	23	50	38	-
カナダ	10	8	14	98	74	82	70	77	3	5	91	-	-
カーボベルデ	58	45	75	92	48	67	47	65	11	12	79	-	-
中央アフリカ共和国	829	463	1470	-	23	26	17	19	18	22	41	-	77
チャド	1140	847	1590	24	7	7	6	7	18	24	24	27	75
チリ	13	11	14	100	63	77	58	71	6	8	85	-	_
中国	29	22	35	100	69	85	67	83	5	4	91	-	-
中国(香港)	_	-	-	_	48	70	45	67	8	9	80	-	-
中国(マカオ)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コロンビア	83	71	98	99	64	82	60	77	6	7	87	-	97
コモロ	273	167	435	-	19	26	15	21	20	30	40	21	-
コンゴ民主共和国	473	341	693	80	22	24	12	11	21	26	27	31	-
コンゴ共和国	378	271	523	91	42	43	28	26	15	19	48	27	53
コスタリカ	27	24	31	99	54	73	53	71	9	11	84	-	62
コートジボワール	617	426	896	74	26	25	22	21	21	27	48	25	63
クロアチア	8	6	11	100	51	71	36	46	7	8	61	-	_
キューバ	36	33	40	100	70	75	69	74	7	8	89	-	-
キュラソー	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
キプロス	6	4	10	98	-	-	-	_	-	-	_	_	-
チェコ	3	2	5	100	63	85	56	76	3	4	84	_	70
デンマーク	4	3	5	95	65	77	61	73	5	7	88	-	90
ジブチ	248	116	527	-	16	28	15	27	15	27	49	-	-
ドミニカ	-	-	-	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ドミニカ共和国	95	88	102	100	57	72	55	70	9	11	84	77	-
エクアドル	59	53	65	96	59	81	53	73	6	6	82	87	-
エジプト	37	27	47	92	44	61	42	59	9	12	80	_	44
エルサルバドル	46	36	57	100	51	73	49	69	8	10	81	_	83
赤道ギニア	301	181	504	_	17	17	15	14	23	32	36	-	-
エリトリア	480	327	718	-	9	13	8	12	18	29	31	-	-
エストニア	9	5	13	99	57	65	52	57	7	12	80	-	-
エスワティニ エチオピア	437	255	792	-	54	68	53	66	10	13	83	49	-
	401	298	573	28	28	40	28	40	15	21	65	45	-
フィジー	34	27	43	100	35	51	30	44	12	16	64	-	-
フィンランド	3	2	4	100	79	82	74	77	3	5	90	_	98
フランス	8	6	9	98	65	78	63	75	4	4	91	-	_
仏領ポリネシア	-	-	_	-	-	-		-	-	-	-	-	-
ガボン	252	165	407		37	37	- 29	- 26	19	24	- 52	48	- 58
ガンビア	597	440	808		11	15	11	14	17	25	37	40	83
ジョージア	25	21	29	99	32	46	23	33	13	19	51	40	93
ドイツ	7	5	9	99	61	78	60	78	5	5	91		
ガーナ	308	223	420	99 78	27	78 35	23	30	19	27	50	52	_
	308												- 関する健康・佐利)

SRH/R:セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と性殖に関する健康・権利)

Br Forest		1		セクシ	ュアガ	レ・リプロ	ロダク	ティブ	・ヘル	ス/ライ	·y		
	妊産婦死亡率 (MMR) (出生10万対) <sup>3</sup>	不確実	帚死亡率の ≷性の範囲 I 80%)	専門技術者の 立会いの 下での 出産率 (%)	350	15-49 女性の避	19歳の		15-49歳 家族 アンメッ (未充気		15-49歳の女性の 避妊需要の 充足率 (近代的避妊法) (%) <sup>}</sup>	SRH/R <sup>*</sup> に 関する 意思決定 (%)	性と生殖に 関する ヘルスケア・ 情報・教育を 保障する
8		低	高		何らが	かの方法	近代的	的避妊法		(%) <sup>‡</sup>		1000	法律および規制 (%)
					全員		全員		全員	有配偶 または 内縁関係	全員		(%)
国・領域・その他の地域	2017	2017	2017	2014–2019	2	2020		2020	2	2020	2020	2020	2019
ギリシャ	3	2	4	100	54	74	38	50	6	7	64	-	54
グレナダ	25	15	39	100	44	63	41	59	10	13	76	-	-
グアダルーペ	_	-	-	-	45	59	41	53	11	15	72	-	-
グアム	-	_	_		41	66	36	55	7	11	74	-	
グアテマラ	95	86	104	70	42	63	35	53	9	13	70	65	-
ギニア	576	437	779	55	12	9	10	8	20	25	32	29	-
ギニアビサウ	667	457	995	45	29	19	27	19	16	20	60	-	70
ガイアナ	169	132	215	96	33	45	32	43	17	26	62	71	75
ハイチ	480	346	680	42	27	37	25	34	24	35	49	59	65
ホンジュラス	65	55	76	74	52	75	46	67	7	9	78	70	-
ハンガリー	12	9	16	100	49	70	44	63	6	9	80	-	-
アイスランド	4	2	6	98	_		_	_	-	_	_	-	- 1
インド	145	117	177	81	43	57	38	50	9	12	74	-	-
インドネシア	177	127	254	95	44	62	42	59	8	11	81	-	
イラン	16	13	20	99	58	81	46	64	4	5	75	-	-
イラク	79	53	113	96	37	56	26	39	9	13	57	_	39
アイルランド	5	3	7	100	66	70	63	66	6	9	88	-	-
イスラエル	3	2	4	100	39	74	31	56	5	8	68		-
イタリア	2	1	2	100	59	66	48	51	7	9	72	_	-
ジャマイカ	80	67	98	100	41	67	39	64	9	11	78		-
日本コルダン	5	3	6	100	47	55	40	43	12	16	67	- 01	83
ヨルダン カザフスタン	46	31	65	100	30	53	21	38	8	14	56	61	-
カザフスタン	10	8	12	100	42	53	40	50	11	15	75	-	63
ケニア	342	253	476	62	46	63	45	62	12	15	77	56	-
キリバス transy	92	49	158	100	19	26	16	21	18	26	44	-	-
北朝鮮	89	38	203	100	58	74	55	71	8	9	84	-	83
韓国	11	9	13	100	56	81	51	73	6	5	82	-	- 1
クウェート	12	8	17	100	41	59	34	49	10	14	67 6F	77	72
キルギス ラオス	60 185	50 139	76 253	100 64	29 38	41 60	27 34	38 54	13	18 12	65 74	77	73 96
ラトビア												_	
レバノン	19 29	15 22	26 40	100	61 29	72 62	54 21	62	6	9	81 61		70
レソト			788					45		15			-
リベリア	544	391		87	52	65	51	64	11	28	81	61	_
リビア	661 72	481	943 164		27 25	29 38	26 16	28 24	25 17	28	50 37	67	- 33
リトアニア	8	5	12	100	46	66	37	53	8	11	70	_	88
ルクセンブルク	5	3	8	-	-	-	-	53	-	-	70	_	00
マダガスカル	335	229	484	46	40	49	35	43	15	16	64	- 74	_
マラウイ	349	244	507	90	48	64	47	63	13	16	77	47	76
マレーシア	29	244	36	100	34	57	24	40	9	15	56	-	81
モルディブ	53	35	84	100	15	21	12	16	22	30	32	58	45
マリ	562	419	784	67	15	19	17	18	21	24	32 44	88	45 79
, Y Y	502	419	/84	07	17	19	17	18	21	24	44	Ö	79

\*SRH/R:セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と性殖に関する健康・権利)

		- H - /- 401
・サイノミノコ アル・1	1フロタクティフ	・ヘルス/ライツ

				セクシ	ユアル	レ・リプロ	コタク:	ティブ・					
	妊産婦死亡率 (MMR) (出生10万対) <sup>3</sup>	不確 (U	帚死亡率の 実性の範囲 Ⅱ 80%)	専門技術者の 立会いの 下での 出産率 (%)		15-49 女性の避 (%	妊実行率	ž.	家族 アンメン (未充) の	計画の ットニーズ ピニーズ) ・割合	15-49歳の女性の 避妊需要の 充足率 (近代的避妊法) (%) <sup>§</sup>	SRH/R <sup>*</sup> に 関する 意思決定 (%)	性と生殖に 関する ヘルスケア・ 情報・教育を (保証)
	CHANGE OF	低	高		何らt	かの方法	近代的	避妊法	(	(%) <sup>‡</sup>		19.1	法律および規制 (%)
					全員	有配偶または内縁関係	全員	有配偶 または 内縁関係	全員	有配偶または内縁関係	全員		
国・領域・その他の地域	2017	2017	2017	2014–2019		2020	20	)20	2	2020	2020	2020	2019
マルタ	6	4	11	100	63	85	49	66	4	3	73	-	90
マルチニーク	_	-	_	_	47	62	43	56	11	14	74	-	-
モーリタニア	766	528	1140	69	11	17	10	15	18	29	34	-	62
モーリシャス	61	46	85	100	43	66	28	42	8	10	55	-	73
メキシコ	33	32	35	96	55	73	53	70	10	10	81	-	-
ミクロネシア	88	40	193	_	-	-	-	-	-	-	_	-	-
モルドバ	19	15	24	100	53	64	41	49	9	12	66	-	-
モンゴル	45	36	56	99	41	56	37	50	13	16	69	63	-
モンテネグロ	6	3	10	99	26	25	18	15	17	22	43	-	52
モロッコ	70	54	91	87	42	70	36	60	7	11	73	-	_
モザンビーク	289	206	418	73	25	27	24	26	19	23	55	49	94
ミャンマー	250	182	351	60	33	57	32	55	8	14	78	67	82
ナミビア	195	144	281	-	52	61	51	60	10	15	83	71	96
ネパール	186	135	267	58	43	54	37	47	17	22	62	48	48
オランダ	5	4	7	_	63	73	61	71	6	7	89	-	98
ニューカレドニア	_	-	_	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ニュージーランド	9	7	11	97	65	80	61	75	5	5	88	-	94
ニカラグア	98	77	127	96	53	82	51	79	5	6	88	-	-
ニジェール	509	368	724	39	16	18	15	17	15	18	48	7	-
ナイジェリア	917	658	1320	43	17	19	13	14	15	19	40	46	-
北マケドニア	7	5	10	100	40	48	21	20	13	17	39	-	-
ノルウェー	2	2	3	99	67	86	63	79	4	4	89	_	-
オマーン	19	16	22	99	20	34	14	23	15	26	39	-	-
パキスタン	140	85	229	69	24	36	18	27	12	17	51	40	65
パレスチナ自治政府1	-	-	-	100	40	61	31	47	8	11	64	-	60
パナマ	52	45	59	93	47	60	45	56	14	17	73	79	
パプアニューギニア	145	67	318	56	27	38	23	31	18	25	50	-	-
パラグアイ	84	72	96	98	58	72	54	66	9	9	81		
ペルー   フィリピン	121	69	110	92	55	76	41	56	5	7	69	- 01	75
ポーランド	121	91	168	100	35	56	26	42	10	16 8	58 72	81	75
ポルトガル					53	73 75	42	56 65	6			-	_
プエルトリコ	8 21	6 16	11 29	99	61 57	75 82	52 52	65 74	7	7 5	78 82		-
カタール	9	6	14	100	30	47	25	40	10	16	63	_	-
レユニオン	-	-	-	-	49	72	47	70	9	9	83		
ルーマニア	19	14	25	97	55	72	45	57	5	8	74	_	-
ロシア	17	13	23	100	49	68	41	57	7	10	75		
ルワンダ	248	184	347	91	33	57	30	52	12	17	68	70	_
セントクリストファー・ネービス	_	-	-	100	-	-	-	-	-	-	-	-	
セントルシア	117	71	197	100	48	61	45	57	12	15	75	_	_
セントビンセントおよびグレナディーン諸島	68	44	100	99	50	66	47	64	10	12	80	_	81
サモア	43	20	97	83	17	29	16	27	24	42	38	_	_
			77 70 70 70 70 70 70 70 70 70 70 70 70 7								ブ・ヘルス/ライヾ		POLICE STREET

\*SRH/R:セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と性殖に関する健康・権利

				セクシ	ュアル	・リプロ	コダク	ティブ・	ヘル	ス/ライ:	y		**
	妊産婦死亡率 (MMR) (出生10万対) <sup>3</sup>	不確実	那亡率の 性の範囲   80%)     高	専門技術者の 立会いの 下での 出産率 (%)		15-49 女性の避 (%	9歳の 妊実行≊ 6)	മ	15-49歳 家族 アンメッ (未充足		15-49歳の女性の 避妊需要の 充足率 (近代的避妊法) (%) <sup>1</sup>	SRH/R*に 関する 意思決定 (%)	性と生殖に 関する ヘルスケア・ 情報・教育を 保障する 法律および規制
G1 .		= <b>\</b>			何らか	の方法	近代的	避妊法					(%)
					全員	有配偶 または 内縁関係	全員	有配偶 または 内縁関係	全員	有配偶 または 内縁関係	全員	. ::	
国・領域・その他の地域	2017	2017	2017	2014–2019	2	020	20	020	20	020	2020	2020	2019
サンマリノ	100	-	- 017	-	-	-	-	-	- 01	-	-	-	-
サントメ・プリンシペ サウジアラビア	130 17	73 10	217 30	93	35 18	45 29	33	42 23	21 16	28 26	58 44	46	54
セネガル	315	237	434	74	22	30	15 21	28	16	20	55	7	_
セルビア	12	9	17	98	49	56	32	29	10	13	55		86
セーシェル	53	26	109	-	49	_	-		-	-			-
シエラレオネ	1120	808	1620	87	27	24	26	24	20	24	56	40	65
シンガポール	8	5	13	100	40	69	35	60	6	10	77	-	-
セント・マーチン	_	_	-	-	-	_	_	_	_	-		_	_
スロバキア	5	4	7	98	56	79	47	66	4	6	79	_	_
スロベニア	7	5	9	_	54	80	45	66	6	5	76	_	_
ソロモン諸島	104	70	157	86	24	32	20	27	13	17	54	_	_
ソマリア	829	385	1590	-	16	27	7	10	16	27	21	_	_
南アフリカ共和国	119	96	153	97	50	57	50	57	11	14	81	65	95
南スーダン	1150	789	1710	-	6	7	5	7	20	30	20	_	16
スペイン	4	3	5	_	60	63	58	62	9	13	84	_	_
スリランカ	36	31	41	100	45	67	37	55	5	7	73	_	89
スーダン	295	207	408	78	10	15	9	14	18	28	33	_	57
スリナム	120	96	144	98	33	45	32	45	15	23	67	_	45
スウェーデン	4	3	6	_	62	73	57	66	6	9	83	_	100
スイス	5	3	7	_	72	73	68	68	4	7	89	_	92
シリア	31	20	50	_	37	61	27	45	8	13	61	_	77
タジキスタン	17	10	26	95	23	31	21	29	16	22	54	33	-
タンザニア	524	399	712	64	36	43	31	38	16	20	60	47	-
タイ	37	32	44	99	56	80	54	78	4	5	91	_	-
東ティモール	142	102	192	57	18	30	16	28	14	24	51	40	-
トーゴ	396	270	557	69	24	26	22	23	23	31	46	30	73
トンガ	52	24	116	_	20	37	17	31	13	25	51	-	_
トリニダード・トバゴ	67	50	90	100	40	48	35	44	15	20	65	-	32
チュニジア	43	33	54	100	30	58	26	50	8	13	69	_	-
トルコ	17	14	20	98	48	71	33	49	7	10	60	-	-
トルクメニスタン	7	5	10	100	36	54	34	51	10	15	74	_	-
タークス・カイコス諸島	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ツバル	_	-	-	-	-	-	-	-	-	-	_	-	-
ウガンダ	375	278	523	74	34	43	31	39	19	26	58	62	-
ウクライナ	19	14	26	100	53	68	44	54	6	9	74	81	88
アラブ首長国連邦	3	2	5	100	35	50	28	40	12	17	60	-	-
英国	7	6	8	-	74	82	67	74	4	5	87	-	92
米国	19	17	21	99	64	76	57	66	5	6	83	-	-
米領バージン諸島	_	-	_	-	52	75	48	70	8	8	81	-	-
ウルグアイ	17	14	21	100	57	79	55	77	6	7	87	-	99
ウズベキスタン	29	23	37	100	49	69	46	65	6	9	83	-	-

\*SRH/R:セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と性殖に関する健康・権利)

#### セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ

					± / //	- 551	-//	777	*****	V/ 2-1			100
	妊産婦死亡率 (MMR) (出生10万対) <sup>。</sup>	不確実	死亡率の 生の範囲 30%)   	専門技術者の 立会いの 下での 出産率 (%)		15-49 女性の避 (% の方法	妊実行3 6)	率 可避妊法	家族 アンメッ (未充足 の	の女性の 計画の トニーズ !ニーズ) 訓合	15-49歳の女性の 避妊需要の 充足率 (近代的避妊法) (%) <sup>‡</sup>	SRH/R*に 関する 意思決定 (%)	性と生殖に 関する ヘルスケア・ 情報・教育を 保障する 法律および規制 (%)
					全員	有配偶 または 内縁関係	全員	有配偶 または 内縁関係	全員	有配偶 または 内縁関係	全員		
国・領域・その他の地域	2017	2017	2017	2014–2019	21	020	20	020	20	20	2020	2020	2019
バヌアツ	-	-	-	-	36	48	31	40	15	20	60	-	-
ベネズエラ	125	97	170	99	56	76	52	71	8	10	82	_	-
ベトナム	43	32	61	94	59	80	50	67	4	5	79	-	54
西サハラ	-	_	_	-	-	-	-	-	-	-	_	_	
イエメン	164	109	235	-	26	41	20	31	15	25	47	_	63
ザンビア	213	159	289	63	36	52	35	49	15	19	67	47	91
ジンバブエ	458	360	577	86	49	69	49	68	8	10	85	60	- 5

#### NOTES

- Data not available.
- a The MMR has been rounded according to the following scheme: <100, rounded to nearest 1; 100-999, rounded to nearest 1; and ≥1000, rounded to nearest 10.
- 1 On 29 November 2012, the United Nations General Assembly passed Resolution 67/19, which accorded Palestine "non-member observer State status in the United Nations..."

#### **DEFINITIONS OF THE INDICATORS**

Maternal mortality ratio: Number of maternal deaths during a given time period per 100.000 live births during the same time period. (SDG indicator 3.1.1)

Births attended by skilled health personnel: Percentage of births attended by skilled heath personnel (doctor, nurse or midwife). (SDG indicator 3.1.2)

**Contraceptive prevalence rate:** Percentage of women aged 15 to 49 who are currently using any method of contraception.

Contraceptive prevalence rate, modern method: Percentage of women aged 15 to 49 who are currently using any modern method of contraception.

**Unmet need for family planning:** Percentage of women aged 15 to 49 who want to stop or delay childbearing but are not using a method of contraception.

**Proportion of demand satisfied with modern methods**: Percentage of total demand for family planning among women aged 15 to 49 that is satisfied by the use of modern contraception. (SDG indicator 3.7.1)

Decision making on sexual and reproductive health and reproductive rights:
Percentage of women aged 15 to 49 years who are married (or in union), who make their own decisions on three areas – their health care, use of contraception, and sexual intercourse with their partners. (SDG indicator 5.6.1)

Laws and regulations that guarantee access to sexual and reproductive health care, information and education: The extent to which countries have national laws and regulations that guarantee full and equal access to women and men aged 15 years and older to sexual and reproductive health care, information and education. (SDG indicator 5.6.2)

#### **MAIN DATA SOURCES**

Maternal mortality ratio: United Nations Maternal Mortality Estimation Inter-agency Group (WHO, UNICEF, UNFPA, The World Bank and the United Nations Population Division).

Births attended by skilled health personnel: Joint global database on skilled attendance at birth, 2020, United Nations Children's Fund (UNICEF) and World Health Organization (WHO). Regional aggregates calculated by UNFPA based on data from the joint global database.

Contraceptive prevalence rate: United Nations Population Division.

Contraceptive prevalence rate, modern method: United Nations Population Division.

Unmet need for family planning: United Nations Population Division.

 $\begin{tabular}{ll} \textbf{Proportion of demand satisfied with modern methods} : \textbf{United Nations Population Division}. \end{tabular}$ 

Decision making on sexual and reproductive health and reproductive rights: UNFPA.

Laws and regulations that guarantee access to sexual and reproductive health care, information and education: UNFPA.

				思春期	月層と若も	<b>K</b>			
	15-19歳の 思春期の 女子1000人	18歳までの 児童婚 (%)	15-19歳の女子の FGM(女性性器切除) 実施率(%)	調整征	後の 純就学率	リングー ジェンダー パリティ指数、 初等教育	中等教育(%、2	育純就学率 2018)	ジェンダー パリティ指数、 中等教育
64	当たりの 出生率(%)								1 33213
世界/地域	2020	2019	2019	男	女	2018	男	女	2018
世界	41	20		91	89	0.98	66	66	1.00
先進地域	12	-	-	96	96	1.00	90	91	1.01
開発途上地域	45	27	-	91	89	0.97	63	63	1.00
後発開発途上地域	91	38	_	83	79	0.95	40	36	0.89
UNFPA地域	EXCIPOSAN		Parties and the second		Charles .			- 36. FFG	lant states to believe
アラブ諸国	48	20	55	85 <sup>b</sup>	83b	0.97b	64	59	0.93
アジア・太平洋	23	26	-	95	93	0.99	68	69	1.02
東ヨーロッパ・中央アジア	27	12	_	95	95	1.00	88	87	0.98
ラテンアメリカ・カリブ海地域	61	25	-	95	95	1.01	76	79	1.04
東・南アフリカ	95	32	24	85	83	0.98	34	32	0.95
西・中央アフリカ	108	39	23	79	70	0.89	42	37	0.88
A SERVENIA C PURE PROPERTY STATES	at of the se	Bull has filled a	CANAL DESIGNATION		A 45 M	MANEL SERVICE			
国・領域・その他の地域	2003–2018	2005–2019	2004–2018	2009–		2009–2019		9–2019	2009–2019
アフガニスタン	62	28		-	-	-	63	37	0.58
アルバニア	16	12	-	94	97	1.03	84	89	1.06
アルジェリア	10	3	_	-	-	- 0.70	-	-	-
アンゴラ	163	30	-	92	71	0.78	13	10	0.80
アンティグア・バーブーダ島	28	-	-	96	99	1.02	88	90	1.02
アルゼンチン	54	-	-	- 01	-	-	89	93	1.05
アルメニア	21	5	-	91	91	1.00	87	88	1.01
プルバ	26	-	-	94	98	1.04	73	81	1.10
オーストラリア	10	-		96	97	1.01	92	93	1.01
オーストリア	7	-		88	90	1.02	87	87	1.00
アゼルバイジャン	45	11		93	92	1.00	89	88	0.99
パンム	29	-	-	73	75	1.03	60	65	1.09
バーレーン	14	- F0		99	97	0.98	87	94	1.08
バングラデシュ	74	59	-	-	-	- 0.00	61	72	1.18
バルバドス	50	29	_	99	98 95	0.98	91	97	1.07
ベラルーシ ベルギー	14	5	-	95 99	95	1.00	95 95	96 95	1.01
ベルキー ベリーズ	6	34	-	99 99	99	1.00	95 69	95 73	1.00
ベリース	108	34	2	99	99	1.00	53	73 40	0.75
<b>6</b>			۷		91		64		
ブータン ボリビア	28 71	26 20	<u> </u>	93	93	1.02	76	77 77	1.19
ボスニア・ヘルツェゴビナ	11	4		93	93	1.00	-		1.01
ボツワナ	50	<u>-</u>		87	89	1.02			_
ブラジル	53	26		97	97	1.02	80	83	1.04
ブルネイ	10	_		-	-	-	81	84	1.04
ブルガリア	38			88	88	1.00	90	88	0.97
ブルキナファソ	132	52	 58	80	78	0.98	30	32	1.04
ブルンジ	58	19	-	92	95	1.03	24	31	1.04
カンボジア	58	19	<u> </u>	92	95	1.03		-	1.29
カメルーン	119		0.4		89		49	43	0.88
カナダ		31		97		0.91			
<b>ル</b> カアタ	8	-	_	-	-	-	100	100	1.00

				思春期	月層と若者	4			
	15-19歳の 思春期の 女子1000人	18歳までの 児童婚 (%)	15-19歳の女子の FGM(女性性器切除) 実施率(%)	調整 初等教育 (%、2	後の 純就学率 018)	ジェンダー パリティ指数、 初等教育	中等教育 (%、2	純就学率 2018)	ジェンダー パリティ指数、 中等教育
	当たりの 出生率(%)				1				
国・領域・その他の地域	2020	2019	2019	男	女	2018	男	女	2018
カーボベルデ	80	18	_	94	93	0.98	66	74	1.12
中央アフリカ共和国	229	68	18	72	56	0.77	16	10	0.62
チャド	179	67	32	83	64	0.78	25	12	0.48
チリ	26	-	_	95	95	1.00	87	90	1.03
中国	9	-	_	_	-	-	-	-	_
中国(香港)	2	-	-	-	-	-	96	97	1.01
中国(マカオ)	3	-	-	96	96	1.00	85	88	1.05
コロンビア	61	23	_	97	98	1.01	75	80	1.07
コモロ	70	32	-	82	82	1.00	49	52	1.05
コンゴ民主共和国	138	37	-	_	_	_	_	_	-
コンゴ共和国	111	27	-	85	93	1.09	-	-	-
コスタリカ	50	21	-	97	97	1.00	81	84	1.05
コートジボワール	123	27	27	98	90	0.92	45	35	0.77
クロアチア	9	-	-	96	98	1.02	91	94	1.04
キューバ	52	26	<b>-</b>	98	98	1.00	82	87	1.06
キュラソー	23	-	_	-	-	-	_	-	-
キプロス	4	-	-	97	98	1.01	95	95	1.00
チェコ	12	-	_	87	89	1.03	90	91	1.02
デンマーク	3	-	-	98	99	1.01	90	92	1.03
ジブチ	21	5	80	67	67	1.00	38	37	0.97
ドミニカ	48	-	_	90	93	1.04	84	91	1.08
ドミニカ共和国	51	36	_	94	94	1.00	67	75	1.12
エクアドル	71	20	-	-	-	-	83	86	1.03
エジプト	52	17	70	98	99	1.00	82	83	1.01
エルサルバドル	74	26		81	82	1.01	61	63	1.02
赤道ギニア	176	30	-	44	45	1.02	-	-	-
エリトリア エストニア	76 11	41	69	54 93	49 95	0.91 1.01	43 93	40 95	0.94 1.02
エスワティニ	87	- 5	-	83	82	1.00	36	47	1.30
エチオピア	80	40	47	88	82	0.93	31	30	0.97
フィジー	23	40	-	99	99	0.93	80	89	1.10
フィンランド	5		_	99	99	1.00	96	96	1.01
フランス	9	_	_	99	100	1.01	94	95	1.01
仏領ギアナ	76	_	_	_	-	-	_	-	_
仏領ポリネシア	42	_	_	_	_	_	_	_	_
ガボン	91	22	_	_	_	_	_	_	_
ガンビア	86	26	75	78	86	1.10	_	_	_
ジョージア	32	14	-	98	98	1.01	95	97	1.02
ドイツ	6	-	-	90	92	1.02	86	85	0.99
ガーナ	75	21	2	86	87	1.01	57	58	1.02
ギリシャ	9	-	_	98	98	1.00	94	93	0.98
グレナダ	36	_	_	_	_	_	93	83	0.89
グアダルーペ	16	-	_	-	-	-	-	-	-
グアム	35	-		_	-		-	-	_

				思春期	層と若老	4		11	
	15-19歳の 思春期の 女子1000人 当たりの	18歳までの 児童婚 (%)	15-19歳の女子の FGM(女性性器切除) 実施率(%)	調整初等教育:	後の 純就学率	ジェンダー パリティ指数、 初等教育	中等教育: (%、2)	純就学率 018)	ジェンダー パリティ指数、 中等教育
Production of the second	出生率(%)								
国・領域・その他の地域	2020	2019	2019	男	女	2018	男	女	2018
グアテマラ	79	30	-	89	90	1.01	45	43	0.96
ギニア	120	47	92	85	71	0.83	39	26	0.66
ギニアビサウ	106	24	42	75	71	0.95	-	-	-
ガイアナ	74	30	-	97	94	0.97	80	84	1.05
ハイチ	55	15	-	-	-	-	-	-	_
ホンジュラス	89	34	-	80	81	1.02	41	47	1.14
ハンガリー	23	-	-	96	97	1.00	89	90	1.01
アイスランド	6	_	-	100	99	1.00	90	92	1.02
インド	11	27	-	97	99	1.02	61	62	1.02
インドネシア	36	16	-	97	92	0.95	78	80	1.03
イラン	33	17	-	98	98	0.99	82	80	0.98
イラク	82	28	4	_	_	-	-	-	_
アイルランド	7	-	-	-	-	-	97	99	1.01
イスラエル	10	-	_	-	_	-	98	100	1.02
イタリア	4	-	-	97	97	1.00	94	95	1.01
ジャマイカ	52	8	_	81	82	1.01	72	76	1.06
日本	3	-	-	-	-	-	-	-	-
ヨルダン	27	10	-	82	80	0.98	62	64	1.03
カザフスタン	26	7	-	-	-	-	93	93	1.01
ケニア	96	23	11	79	83	1.04	49	46	0.93
キリバス	49	20	_	-	-		-	-	-
北朝鮮	1	_	-	98	98	1.00	-	-	_
韓国	1	-	_	98	98	1.00	98	98	1.00
クウェート	6	-	_	84	93	1.11	85	89	1.05
キルギス	34	13	-	98	97	0.99	85	84	0.99
ラオス	83	33	_	92	91	0.98	61	59	0.98
ラトビア	16	-	-	96	98	1.01	93	95	1.02
レバノン	13	6	_	-	-	-	-	-	_
レント	94	16	-	90	92	1.02	33	50	1.53
リベリア゜	150	36	26	44	45	1.01	17	15	0.87
リビア	11	-	-	-	-	-	-	-	_
リトアニア	13	-	-	-	-	-	98	98	1.00
ルクセンブルク	4	-	-	98	98	1.01	82	85	1.04
マダガスカル	152	40	-	-	-	-	29	31	1.08
マラウイ	138	42	-	-	-	-	34	35	1.03
マレーシア	9	-	-	100	100	1.00	69	75	1.09
モルディブ	9	2	1	94	96	1.02	-	-	-
マリ	164	54	86	62	56	0.90	33	27	0.81
マルタ	13	-	-	-	-	-	92	94	1.03
マルチニーク	17	_	_	_	_	_	_	_	_
モーリタニア	84	37	63	79	81	1.03	30	32	1.05
モーリシャス	24	_	_	95	97	1.02	82	87	1.07
メキシコ	71	26	-	-	-	-	80	83	1.03
ミクロネシア	44	_	_	85	86	1.00	_	_	_
モルドバ	21	12	-	90	90	1.01	78	78	0.99

				思春期	明層と若者	4			
	15-19歳の 思春期の	18歳までの 児童婚	15-19歳の女子の FGM(女性性器切除)		後の	ジェンダー パリティ指数、		育純就学率 2018)	ジェンダー パリティ指数、
	女子1000人 当たりの	(%)	実施率(%)		2018)	初等教育	(70%	2010)	中等教育
	出生率(%)		THE REPORT OF THE PARTY OF THE						200
国・領域・その他の地域	2020	2019	2019	男	女 200	2018	男	女	2018
モンゴル モンテネグロ	33	12		97	96	0.99	-	-	1.01
モファネノロ	10	6	_	96	97	1.01	88	90	1.01
モザンビーク	180	14 53		97 95	92	1.00 0.97	64 19	64 19	1.00
ミャンマー	28	16	_	90	88	0.99		67	1.00
ナミビア	64	7		95	98	1.03	61	-	1.08
ネパール	88	40		95	90	1.03		63	1.03
オランダ	3	40		99	99		61 93	94	1.03
ニューカレドニア						1.01		94	
ニュージレトーア	15	_		-	-	1.01	-		1.00
	14	- 25	-	98	99	1.01	96	98	1.02
ニカラグア   ニジェール	92	35 76	_ 1	95	98	1.03	45	52 17	1.17
ナイジェリア	154 106	76 43	1 14	69 72	58 60	0.85	23	17	0.74
北マケドニア			14					_	_
	15	7	-	96	96	1.00	-	-	1.00
ノルウェー オマーン	3			100	100	1.00	96	96	1.00
パキスタン	12	4	-	98	100	1.02	99	93	0.94
	46	18		74	62	0.84	40	34	0.85
パレスチナ自治政府1	48	15	-	97	97	1.00	83	91	1.09
パプアニューギニア	76	26		87	86	0.99	62	66	1.07
	68	27	-	78	73	0.93	35	29	0.82
パラグアイ ペルー	72	22		88	88	1.00	66	66	1.00
	44	17	-	96	97	1.01	91	88	0.96
フィリピン	39	17		95	95	1.00	60	71	1.19
ポーランド	11	-	-	97	97	1.00	94	94	1.00
ポルトガル	8			98	97	0.99	94	95	1.01
プエルトリコ	22	-	_	77	80	1.04	73	79	1.09
カタール	9	4		97	99	1.03	96	92	0.96
レユニオン	30	-	-	-	-	-	-	-	-
ルーマニア	38	_		86	86	1.00	82	83	1.01
ロシア	22	-	-	97	98	1.01	90	91	1.01
ルワンダ	41	7		95	96	1.01	33	39	1.18
セントクリストファー・ネービス	46	-	-	-	-	-	96	100	1.04
セントルシア	36	24		97	100	1.03	81	82	1.01
セントビンセントおよびグレナディーン諸島	52	-	-	-	-	-	87	92	1.05
サモア	39	11	-	-	_	-	82	90	1.10
サンマリノ	1	-	-	-	-	-	70	63	0.89
サントメ・プリンシペ	92	35	_	94	94	1.00	62	69	1.12
サウジアラビア	9	-	- 21	95	95	1.00	99	94	0.96
セネガル	78 1E	29	21	72	81	1.12	36	39	1.10
セルビア	15	3	-	98	98	1.00	92	93	1.01
セーシェル	68	-	-	-	-	1.00	78	83	1.06
シエラレオネ	101	30	64	98	98	1.00	43	41	0.96
シンガポール	3						100	100	1.00
セント・マーチン	- 07	-	-	-	- 04	1.00	68	72	1.06
スロバキア	27	_		82	84	1.02	84	85	1.01

				思春期層と若者					
	15-19歳の 思春期の 女子1000人 当たりの	18歳までの 児童婚 (%)	15-19歳の女子の FGM(女性性器切除) 実施率(%)	調整後の 初等教育純就学率 (%、2018)		ジェンダー パリティ指数、 初等教育	中等教育純就学率 (%、2018)		ジェンダー パリティ指数、 中等教育
Section 1	出生率(%)							200	
国・領域・その他の地域	2020	2019	2019	男	女	2018	男	女	2018
スロベニア	4	-	-	98	99	1.01	95	97	1.02
ソロモン諸島	78	21	-	67	68	1.01	-	-	-
ソマリア	123	45	97	-	-	-	-	-	-
南アフリカ共和国	41	4	-	90	95	1.05	65	79	1.20
南スーダン	158	52	-	40	30	0.76	6	4	0.70
スペイン	7	-		97	98	1.01	96	98	1.02
スリランカ	21	10	-	98	97	0.98	90	92	1.03
スーダン	87	34	82	62	61	0.98	32	31	0.95
スリナム	57	36	-	84	88	1.04	52	64	1.23
スウェーデン	5	_	_	-	_	_	100	99	1.00
スイス	2	-	-	99	100	1.01	87	84	0.97
シリア	54	13	-	73	71	0.98	49	48	0.98
タジキスタン	54	9	-	98	97	0.99	87	79	0.90
タンザニア	139	31	5	81	84	1.04	26	27	1.06
タイ	38	23	-	98	98	1.00	77	78	1.01
東ティモール	42	15	-	94	97	1.03	59	67	1.14
トーゴ	89	25	1	97	92	0.95	49	33	0.69
トンガ	30	6	-	-	-	-	81	84	1.04
トリニダード・トバゴ	38	11	-	99	98	0.99	-	-	-
チュニジア	4	2	_	97	100	1.02	-	-	-
トルコ	21	15	-	95	95	0.99	88	86	0.97
トルクメニスタン	28	6	_	-	-	_	-	-	-
タークス・カイコス諸島	15	-	-	-	-	-	-	-	-
ツバル	27	10	-	91	84	0.92	62	71	1.14
ウガンダ	132	34	0.1	94	97	1.03	-	-	-
ウクライナ	19	9	-	91	93	1.02	85	86	1.01
アラブ首長国連邦	5	-	-	92	95	1.03	95	90	0.95
英国	12	-	-	100	99	1.00	97	97	1.00
米国	19	-	-	96	96	1.00	92	93	1.01
米領バージン諸島	25	-	-	-	-	_	-	_	-
ウルグアイ	36	25	-	97	97	1.00	85	91	1.07
ウズベキスタン	19	7	_	98	96	0.99	91	90	0.99
バヌアツ	51	21	_	92	93	1.01	48	50	1.04
ベネズエラ	95	-	_	90	90	1.00	70	77	1.10
ベトナム	30	11	-	-	-	_	-	-	-
西サハラ	-	-	-	-	-	_	-	-	-
イエメン	67	32	16	90	79	0.88	55	40	0.73
ザンビア	135	29	_	83	87	1.05	-	_	_
ジンバブエ	78	34	-	-	-	-	49	49	0.99

### カイロ会議の目標の検証:尊厳および人権

#### **NOTES**

- Data not available.
- a Percentage of girls aged 15-19 years who are members of the Sande society. Membership in Sande society is a proxy for female genital mutilation.
- b Reference year is 2017.
- 1 On 29 November 2012, the United Nations General Assembly passed Resolution 67/19, which accorded Palestine "non-member observer State status in the United Nations..."

#### **DEFINITIONS OF THE INDICATORS**

Adolescent birth rate: Number of births per 1,000 adolescent girls aged 15–19. (SDG indicator 3.7.2)

**Child marriage by age 18:** Proportion of women aged 20-24 years who were married or in a union before age 18. (SDG indicator 5.3.1)

Female genital mutilation prevalence among girls aged 15-19: Proportion of girls aged 15-19 years who have undergone female genital mutilation. (SDG indicator 5.3.2)

Adjusted net enrolment rate, primary education: Percentage of children of the official primary age group who are enrolled in primary or secondary education.

Gender parity index, primary education: Ratio of female to male values of adjusted primary school net enrolment ratio.

Net enrolment rate, secondary education: Percentage of children of the official secondary age group who are enrolled in secondary education.

**Gender parity index, secondary education:** Ratio of female to male values of secondary school net enrolment ratio.

#### MAIN DATA SOURCES

Adolescent birth rate: United Nations Population Division.

**Child marriage by age 18:** UNICEF. Regional aggregates calculated by UNFPA based on data from UNICEF.

Female genital mutilation prevalence among girls aged 15-19: UNFPA.

Adjusted net enrolment rate, primary education: UNESCO Institute for Statistics (IIIS)

Gender parity index, primary education: UNESCO Institute for Statistics (UIS).

Net enrolment rate, secondary education: UNESCO Institute for Statistics (UIS).

Gender parity index, secondary education: UNESCO Institute for Statistics (UIS).

	٨٥	人口増加	0.1.445	人口構成	(年齢別)	CENEIN I	出生性比	出生率	平均寿命
	人口 (百万人)	年平均 増加率 (%)	0-14歳 人口の割合 (%)	10-24歳 人口の割合 (%)	15-64歳 人口の割合 (%)	65歳以上 人口の割合 (%)	出生性比 (女児1人に 対する男児の数)	女性1人 当たりの 合計出生率	平均寿命 (年)
世界/地域	2020	2015–2020	2020	2020	2020	2020	2017	2020	2020
世界	7,795	1.1	25.4	23.7	65.2	9.3	1.068	2.4	73
先進地域	1,273	0.3	16.4	16.6	64.3	19.3	-	1.6	80
開発途上地域	6,521	1.3	27.2	25.1	65.4	7.4	_	2.6	71
後発開発途上地域	1,057	2.3	38.8	31.8	57.6	3.6	-	3.9	66
UNFPA地域		Maria de la composición dela composición de la composición de la composición de la composición de la composición dela composición dela composición dela composición de la composición dela composición de la composición dela composición de		Viving the total			AND PROPERTY.		
アラブ諸国	377	1.9	34.0	27.6	61.0	5.0	-	3.3	72
アジア・太平洋	4,083	0.9	23.6	23.5	68.0	8.4	-	2.1	73
東ヨーロッパ・中央アジア	250	0.9	23.4	21.2	66.3	10.2	_	2.1	74
ラテンアメリカ・カリブ海地域	650	1.0	23.9	24.5	67.2	8.9	_	2.0	76
東・南アフリカ	617	2.6	41.2	32.3	55.6	3.2	_	4.2	64
西・中央アフリカ	459	2.7	43.1	32.2	54.1	2.8	-	5.0	58
国・領域・その他の地域	2020	2015–2020	2020	2020	2020	2020	2017	2020	2020
アフガニスタン	38.9	2.5	41.8	35.3	55.5	2.6	1.059	4.2	65
アルバニア	2.9	-0.1	17.2	20.5	68.1	14.7	1.083	1.6	79
アルジェリア	43.9	2.0	30.8	22.2	62.5	6.7	1.044	2.9	77
アンゴラ	32.9	3.3	46.4	32.8	51.4	2.2	1.027	5.4	61
アンティグア・バーブーダ島	0.1	0.9	21.8	21.9	68.8	9.3	1.031	2.0	77
アルゼンチン	45.2	1.0	24.4	23.5	64.2	11.4	1.057	2.2	77
アルメニア	3.0	0.3	20.8	18.4	67.4	11.8	1.117	1.8	75
アルバ1	0.1	0.5	17.4	20.2	68.0	14.6	1.045	1.9	76
オーストラリア <sup>2</sup>	25.5	1.3	19.3	18.5	64.5	16.2	1.057	1.8	84
オーストリア	9.0	0.7	14.4	15.4	66.4	19.2	1.064	1.6	82
アゼルバイジャン³	10.1	1.0	23.5	20.3	69.7	6.7	1.134	2.0	73
バハマ	0.4	1.0	21.6	24.7	70.6	7.7	1.029	1.7	74
バーレーン	1.7	4.3	18.3	16.1	79.1	2.7	1.041	1.9	77
バングラデシュ	164.7	1.1	26.8	27.9	68.0	5.2	1.055	2.0	73
バルバドス	0.3	0.1	16.8	19.2	66.5	16.7	1.037	1.6	79
ベラルーシ	9.4	0.0	17.2	14.3	67.2	15.6	1.063	1.7	75
ベルギー	11.6	0.5	17.0	17.0	63.7	19.3	1.050	1.7	82
ベリーズ	0.4	1.9	29.2	29.5	65.8	5.0	1.050	2.2	75
ベナン	12.1	2.7	41.9	32.1	54.8	3.3	1.042	4.7	62
ブータン	0.8	1.2	24.9	27.3	68.9	6.2	1.051	1.9	72
ボリビア	11.7	1.4	30.2	28.8	62.3	7.5	1.042	2.7	72
ボスニア・ヘルツェゴビナ	3.3	-0.9	14.5	17.1	67.6	17.9	1.067	1.2	78
ボツワナ	2.4	2.1	33.4	28.7	62.1	4.5	1.031	2.8	70
ブラジル	212.6	0.8	20.7	22.7	69.7	9.6	1.044	1.7	76
ブルネイ	0.4	1.1	22.3	22.9	72.1	5.6	1.072	1.8	76
ブルガリア	6.9	-0.7	14.7	14.2	63.9	21.5	1.061	1.6	75
ブルキナファソ	20.9	2.9	44.4	33.2	53.2	2.4	1.041	5.0	62
ブルンジ	11.9	3.1	45.3	31.7	52.4	2.4	1.023	5.2	62
カンボジア	16.7	1.5	30.9	27.7	64.2	4.9	1.052	2.5	70
カメルーン	26.5	2.6	42.1	32.4	55.2	2.7	1.026	4.4	60
カナダ	37.7	0.9	15.8	16.8	66.1	18.1	1.056	1.5	83
カーボベルデ	0.6	1.2	28.1	26.2	67.1	4.8	1.033	2.2	73
			CASS PARTY	A SEE SAN EED AT DE		A STATE OF THE STATE OF	318039556	MARKET MARKET	CONTRACTOR

				*						
	人口	人口増加 年平均	0-14歳	人口構成 10-24歳	(年齢別) 15-64歳	65歳以上	出生性比	出生率 女性1人	平均寿命平均寿命	
	(百万人)	サージ 増加率 (%)	して14歳 人口の割合 (%)	10-24歳 人口の割合 (%)		05歳以上 人口の割合 (%)	(女児1人に 対する男児の数)	当たりの合計出生率	(年)	
国・領域・その他の地域	2020	2015–2020	2020	2020	2020	2020	2017	2020	2020	
中央アフリカ共和国	4.8	1.4	43.5	36.2	53.7	2.8	1.031	4.6	54	_
チャド	16.4	3.0	46.5	33.9	51.0	2.5	1.039	5.6	55	
チリ	19.1	1.2	19.2	20.4	68.5	12.2	1.043	1.6	80	
中国4	1,439.3	0.5	17.7	17.6	70.3	12.0	1.143	1.7	77	
中国(香港)5	7.5	0.8	12.7	12.4	69.1	18.2	1.078	1.4	85	
中国(マカオ) <sup>6</sup>	0.6	1.5	14.4	12.8	73.7	12.0	1.084	1.2	84	
コロンビア	50.9	1.4	22.2	24.6	68.8	9.1	1.045	1.8	77	
コモロ	0.9	2.2	39.0	31.1	57.9	3.1	1.032	4.1	65	
コンゴ民主共和国	89.6	3.2	45.8	32.1	51.2	3.0	1.022	5.7	61	
コンゴ共和国	5.5	2.6	41.3	31.4	56.0	2.8	1.025	4.3	65	
コスタリカ	5.1	1.0	20.8	22.0	68.9	10.3	1.043	1.7	80	
コートジボワール	26.4	2.5	41.5	32.8	55.6	2.9	1.030	4.5	58	
クロアチア	4.1	-0.6	14.5	15.7	64.2	21.3	1.058	1.4	79	
キューバ	11.3	0.0	15.9	17.2	68.2	15.9	1.073	1.6	79	
キュラソー <sup>1</sup>	0.2	0.5	18.2	18.9	64.2	17.7	1.045	1.7	79	
キプロス <sup>7</sup>	1.2	0.8	16.6	19.5	69.0	14.4	1.065	1.3	81	
チェコ	10.7	0.2	15.8	14.3	64.1	20.1	1.055	1.7	80	
デンマーク <sup>8</sup>	5.8	0.4	16.3	18.1	63.6	20.2	1.057	1.8	81	
ジブチ	1.0	1.6	28.9	27.3	66.4	4.7	1.038	2.6	67	
ドミニカ	0.1	0.2	_	_	_	_	1.030	_	_	
ドミニカ共和国	10.8	1.1	27.4	26.5	65.0	7.5	1.045	2.3	74	
エクアドル	17.6	1.7	27.4	26.5	65.0	7.6	1.046	2.4	77	
エジプト	102.3	2.0	33.9	26.2	60.7	5.3	1.054	3.2	72	
エルサルバドル	6.5	0.5	26.6	27.7	64.8	8.7	1.064	2.0	74	
赤道ギニア	1.4	3.7	36.8	28.8	60.8	2.4	1.031	4.3	59	
エリトリア	3.5	1.2	41.1	32.3	54.4	4.5	1.031	3.9	67	
エストニア	1.3	0.2	16.5	14.7	63.1	20.4	1.057	1.6	79	
エスワティニ	1.2	1.0	37.4	33.6	58.5	4.0	1.027	2.9	61	
エチオピア	115.0	2.6	39.9	33.6	56.5	3.5	1.055	4.0	67	
フィジー	0.9	0.6	29.0	25.7	65.2	5.8	1.069	2.7	68	
フィンランド <sup>9</sup>	5.5	0.2	15.9	16.6	61.6	22.6	1.051	1.5	82	
フランス <sup>10</sup>	65.3	0.3	17.7	17.7	61.6	20.8	1.049	1.8	83	
仏領ギアナ <sup>11</sup>	0.3	2.7	31.8	27.7	62.6	5.6	1.035	3.3	80	Ī
仏領ポリネシア11	0.3	0.6	22.2	23.4	68.7	9.1	1.055	1.9	78	
ガボン	2.2	2.7	37.3	27.1	59.2	3.5	1.020	3.9	67	Ī
ガンビア	2.4	2.9	44.0	32.5	53.5	2.5	1.031	5.1	62	
ジョージア <sup>12</sup>	4.0	-0.2	20.2	17.7	64.5	15.3	1.065	2.0	74	
ドイツ	83.8	0.5	14.0	14.9	64.4	21.7	1.054	1.6	81	
ガーナ	31.1	2.2	37.1	30.5	59.7	3.1	1.040	3.8	64	
ギリシャ	10.4	-0.4	13.7	15.3	64.1	22.3	1.062	1.3	82	
グレナダ	0.1	0.5	23.8	22.1	66.4	9.8	1.032	2.0	72	
グアダルーペ11	0.4	0.0	18.4	21.7	62.2	19.4	1.032	2.1	82	
グアム <sup>13</sup>	0.2	0.8	23.9	24.3	65.6	10.5	1.073	2.3	80	
グアテマラ	17.9	1.9	33.3	31.7	61.6	5.0	1.039	2.8	75	
ギニア	13.1	2.8	43.0	34.3	54.0	3.0	1.041	4.6	62	Ī
	Carlo Contract		* C (1)						THE PLANT	

į.	人口	人口増加		人口構成	(年齢別)		出生性比	出生率	平均寿命
	人口 (百万人)	年平均 増加率 (%)	0-14歳 人口の割合 (%)	10-24歳 人口の割合 (%)	15-64歳 人口の割合 (%)	65歳以上 人口の割合 (%)	出生性比 (女児1人に 対する男児の数)	女性1人 当たりの 合計出生率	平均寿命 (年)
国・領域・その他の地域	2020	2015–2020	2020	2020	2020	2020	2017	2020	2020
ギニアビサウ	2.0	2.5	41.9	32.1	55.2	2.9	1.036	4.3	59
ガイアナ	0.8	0.5	27.7	28.3	65.3	7.0	1.041	2.4	70
ハイチ	11.4	1.3	32.5	29.9	62.4	5.2	1.031	2.8	64
ホンジュラス	9.9	1.7	30.6	31.1	64.4	5.0	1.052	2.4	75
ハンガリー	9.7	-0.2	14.4	15.4	65.4	20.2	1.058	1.5	77
アイスランド	0.3	0.7	19.4	19.6	65.0	15.6	1.048	1.7	83
インド	1,380.0	1.0	26.2	27.2	67.3	6.6	1.098	2.2	70
インドネシア	273.5	1.1	25.9	25.2	67.8	6.3	1.060	2.3	72
イラン	84.0	1.4	24.7	20.6	68.7	6.6	1.052	2.1	77
イラク	40.2	2.5	37.7	31.1	58.8	3.4	1.053	3.5	71
アイルランド	4.9	1.2	20.8	19.4	64.6	14.6	1.050	1.8	82
イスラエル	8.7	1.6	27.8	23.4	59.8	12.4	1.058	3.0	83
イタリア	60.5	0.0	13.0	14.3	63.7	23.3	1.059	1.3	84
ジャマイカ	3.0	0.5	23.4	24.6	67.6	9.1	1.037	2.0	75
日本	126.5	-0.2	12.4	13.7	59.2	28.4	1.054	1.4	85
ヨルダン	10.2	1.9	32.9	30.6	63.2	4.0	1.051	2.6	75
カザフスタン	18.8	1.3	29.1	20.3	63.0	7.9	1.061	2.7	74
ケニア	53.8	2.3	38.6	33.4	58.9	2.5	1.021	3.4	67
キリバス	0.1	1.5	35.9	28.9	59.9	4.2	1.067	3.5	69
北朝鮮	25.8	0.5	19.8	21.3	70.8	9.3	1.062	1.9	72
韓国	51.3	0.2	12.5	15.5	71.7	15.8	1.056	1.1	83
<b>ク</b> ウェート	4.3	2.1	21.5	17.3	75.5	3.0	1.046	2.1	76
キルギス	6.5	1.8	32.6	24.8	62.6	4.7	1.060	2.9	72
ラオス	7.3	1.5	31.9	29.7	63.8	4.3	1.054	2.6	68
ラトビア	1.9	-1.1	16.4	13.7	62.9	20.7	1.059	1.7	75
レバノン	6.8	0.9	25.1	25.3	67.4	7.5	1.052	2.1	79
レソト	2.1	0.8	32.2	29.5	62.8	4.9	1.027	3.1	55
リベリア	5.1	2.5	40.4	32.4	56.3	3.3	1.038	4.2	64
リビア	6.9	1.4	27.8	25.1	67.7	4.5	1.056	2.2	73
リトアニア	2.7	-1.5	15.5	13.8	63.9	20.6	1.053	1.7	76
ルクセンブルク	0.6	2.0	15.6	16.9	70.1	14.4	1.060	1.4	82
マダガスカル	27.7	2.7	40.1	32.6	56.8	3.1	1.036	4.0	67
マラウイ	19.1	2.7	43.0	34.4	54.4	2.6	1.013	4.1	65
マレーシア14	32.4	1.3	23.4	24.7	69.4	7.2	1.066	2.0	76
モルディブ	0.5	3.4	19.6	20.4	76.8	3.6	1.066	1.8	79
マリ	20.3	3.0	47.0	33.5	50.5	2.5	1.033	5.7	60
マルタ	0.4	0.4	14.4	14.9	64.3	21.3	1.067	1.5	83
マルチニーク11	0.4	-0.2	15.7	19.1	62.6	21.7	1.029	1.8	83
モーリタニア	4.6	2.8	39.7	30.6	57.1	3.2	1.032	4.4	65
モーリシャス <sup>15</sup>	1.3	0.2	16.8	21.2	70.7	12.5	1.037	1.4	75
メキシコ	128.9	1.1	25.8	25.8	66.5	7.6	1.037	2.1	75
ミクロネシア	0.1	1.1	31.2	30.4	64.4	4.4	1.067	3.0	68
モルドバ <sup>16</sup>	4.0	-0.2	15.9	16.4	71.6	12.5	1.062	1.3	72
モンゴル	3.3	1.8	31.1	22.2	64.6	4.3	1.051	2.8	70

	人口	人口増加		1 口提出	(年齢別)		出生性比	出生率	平均寿命
		年平均	0-14歳	八口稱成 10-24歳	15-64歳	65歳以上	出生性比	女性1人	平均寿命
	(百万人)	ザー% 増加率 (%)	人口の割合 (%)	人口の割合 (%)	人口の割合 (%)		(女児1人に 対する男児の数)	当たりの合計出生率	(年)
国・領域・その他の地域	2020	2015–2020	2020	2020	2020	2020	2017	2020	2020
モンテネグロ	0.6	0.0	18.0	19.1	66.2	15.8	1.072	1.7	77
モロッコ	36.9	1.3	26.8	24.3	65.6	7.6	1.069	2.4	77
モザンビーク	31.3	2.9	44.1	33.6	53.1	2.9	1.018	4.7	61
ミャンマー	54.4	0.6	25.5	27.0	68.3	6.2	1.066	2.1	67
ナミビア	2.5	1.9	36.8	30.3	59.6	3.6	1.011	3.3	64
ネパール	29.1	1.5	28.8	32.1	65.4	5.8	1.073	1.8	71
オランダ <sup>17</sup>	17.1	0.2	15.7	17.4	64.3	20.0	1.054	1.7	82
ニューカレドニア <sup>11</sup>	0.3	1.0	22.1	23.3	68.2	9.7	1.060	1.9	78
ニュージーランド18	4.8	0.9	19.4	19.7	64.2	16.4	1.056	1.9	82
ニカラグア	6.6	1.3	29.5	27.5	64.8	5.7	1.034	2.3	75
ニジェール	24.2	3.8	49.7	33.0	47.7	2.6	1.040	6.7	63
ナイジェリア	206.1	2.6	43.5	31.9	53.8	2.7	1.036	5.2	55
北マケドニア	2.1	0.0	16.3	17.5	69.2	14.5	1.073	1.5	76
ノルウェー <sup>19</sup>	5.4	0.8	17.3	18.4	65.2	17.5	1.057	1.7	83
オマーン	5.1	3.6	22.5	16.8	75.0	2.5	1.043	2.8	78
パキスタン	220.9	2.0	34.8	30.0	60.8	4.3	1.064	3.4	67
パレスチナ自治政府20	5.1	2.4	38.4	31.5	58.4	3.2	1.053	3.5	74
パナマ	4.3	1.7	26.5	24.9	65.0	8.5	1.050	2.4	79
パプアニューギニア	8.9	2.0	35.1	30.8	61.3	3.6	1.067	3.5	65
パラグアイ	7.1	1.3	28.9	28.2	64.3	6.8	1.051	2.4	74
ペルー	33.0	1.6	24.7	23.5	66.6	8.7	1.040	2.2	77
フィリピン	109.6	1.4	30.0	28.7	64.4	5.5	1.080	2.5	71
ポーランド	37.8	-0.1	15.2	15.0	66.0	18.7	1.059	1.4	79
ポルトガル	10.2	-0.3	13.1	15.3	64.2	22.8	1.054	1.3	82
プエルトリコ <sup>13</sup>	2.9	-3.3	15.8	18.8	63.4	20.8	1.057	1.2	80
カタール	2.9	2.3	13.6	16.2	84.7	1.7	1.044	1.8	80
レユニオン <sup>11</sup>	0.9	0.7	22.4	22.6	64.9	12.7	1.035	2.2	81
ルーマニア	19.2	-0.7	15.5	16.0	65.2	19.2	1.061	1.6	76
ロシア	145.9	0.1	18.4	15.0	66.1	15.5	1.059	1.8	73
ルワンダ	13.0	2.6	39.5	31.6	57.4	3.1	1.027	3.9	69
セントクリストファー・ネービス	0.1	0.8	-	-	_	-	1.037	-	_
セントルシア	0.2	0.5	18.0	21.9	71.8	10.3	1.036	1.4	76
セントビンセントおよびグレナディーン諸島	0.1	0.3	21.9	24.1	68.2	9.9	1.029	1.9	73
サモア	0.2	0.5	37.2	29.5	57.7	5.1	1.067	3.8	73
サンマリノ	0.2	0.5	-	-	-	-	1.067	-	-
サントメ・プリンシペ	0.2	1.9	41.8	33.2	55.2	3.0	1.028	4.2	71
サウジアラビア	34.8	1.9	24.7	20.7	71.8	3.5	1.050	2.2	75
セネガル	16.7	2.8	42.6	32.1	54.3	3.1	1.033	4.5	68
セルビア21	8.7	-0.3	15.4	17.5	65.6	19.1	1.071	1.4	76
セーシェル	0.1	0.7	23.8	20.6	68.2	8.1	1.034	2.4	73
シエラレオネ	8.0	2.1	40.3	32.9	56.7	2.9	1.034	4.1	55
シンガポール	5.9	0.9	12.3	15.4	74.3	13.4	1.065	1.2	84
セント・マーチン1	0.04	1.4	-	-	-	-	1.000	-	-
スロバキア	5.5	0.1	15.6	15.3	67.7	16.7	1.055	1.5	78
スロベニア	2.1	0.1	15.0	14.1	64.1	20.7	1.059	1.6	81
ヘロハーノ	۷.۱	U. I	10.1	14.1	04.1	20.7	1.009	1.0	01

	人口 人口 (百万人)	人口增加 年平均 増加率 (%)	0-14歳 人口の割合 (%)	人口構成 10-24歳 人口の割合 (%)	(年齢別) 15-64歳 人口の割合 (%)	65歳以上 人口の割合 (%)	出生性比 出生性比 (女児1人に 対する男児の数)	出生率 女性1人 当たりの 合計出生率	平均寿命 平均寿命 (年)
-   国・領域・その他の地域	2020	2015–2020	2020	2020	2020	2020	2017	2020	2020
ソロモン諸島	0.7	2.6	40.0	30.5	56.3	3.7	1.067	4.3	73
ソマリア	15.9	2.8	46.1	34.4	50.9	2.9	1.043	5.9	58
南アフリカ共和国	59.3	1.4	28.8	25.9	65.7	5.5	1.031	2.4	64
南スーダン	11.2	0.9	41.3	32.6	55.3	3.4	1.034	4.5	58
スペイン22	46.8	0.0	14.4	15.0	65.6	20.0	1.065	1.4	84
スリランカ	21.4	0.5	23.7	22.8	65.1	11.2	1.039	2.2	77
スーダン	43.8	2.4	39.8	32.6	56.5	3.7	1.041	4.3	66
スリナム	0.6	1.0	26.7	25.7	66.2	7.1	1.031	2.4	72
スウェーデン	10.1	0.7	17.6	16.5	62.0	20.3	1.058	1.8	83
スイス	8.7	8.0	15.0	15.2	65.9	19.1	1.055	1.5	84
シリア	17.5	-0.6	30.8	28.2	64.4	4.9	1.052	2.7	74
タジキスタン	9.5	2.4	37.3	27.5	59.6	3.2	1.061	3.5	71
タンザニア <sup>23</sup>	59.7	3.0	43.6	32.4	53.8	2.6	1.027	4.8	66
タイ	69.8	0.3	16.6	19.1	70.5	13.0	1.064	1.5	77
東ティモール	1.3	1.9	36.8	33.1	58.9	4.3	1.070	3.9	70
トーゴ	8.3	2.5	40.6	32.1	56.5	2.9	1.028	4.2	61
トンガ	0.1	1.0	34.8	31.4	59.3	5.9	1.079	3.5	71
トリニダード・トバゴ	1.4	0.4	20.1	19.4	68.4	11.5	1.040	1.7	74
チュニジア	11.8	1.1	24.3	20.8	66.8	8.9	1.054	2.2	77
トルコ	84.3	1.4	23.9	24.1	67.1	9.0	1.054	2.0	78
トルクメニスタン	6.0	1.6	30.8	24.4	64.4	4.8	1.063	2.7	68
タークス・カイコス諸島	0.04	1.5	-	-	-	-	-	-	-
ツバル	0.01	1.2	-	-	-	-	1.068	_	-
ウガンダ	45.7	3.6	46.0	34.5	52.0	2.0	1.024	4.7	64
ウクライナ <sup>24</sup>	43.7	-0.5	16.0	14.9	67.1	16.9	1.062	1.4	72
アラブ首長国連邦	9.9	1.3	14.8	15.8	83.9	1.3	1.050	1.4	78
英国25	67.9	0.6	17.7	17.3	63.7	18.7	1.055	1.7	81
米国26	331.0	0.6	18.4	19.5	65.0	16.6	1.047	1.8	79
米領バージン諸島13	0.1	-0.1	19.3	19.6	60.2	20.5	1.039	2.0	81
ウルグアイ	3.5	0.4	20.3	21.1	64.6	15.1	1.051	2.0	78
ウズベキスタン	33.5	1.6	28.8	24.6	66.4	4.8	1.078	2.4	72
バヌアツ	0.3	2.5	38.4	30.2	58.0	3.6	1.067	3.7	71
ベネズエラ	28.4	-1.1	27.3	25.5	64.8	8.0	1.054	2.2	72
ベトナム	97.3	1.0	23.2	21.0	68.9	7.9	1.122	2.0	75
西サハラ	0.6	2.5	27.2	24.9	69.4	3.4	1.050	2.3	71
イエメン	29.8	2.4	38.8	32.4	58.2	2.9	1.058	3.6	66
ザンビア	18.4	2.9	44.0	34.3	53.9	2.1	1.013	4.5	64
ジンバブエ	14.9	1.5	41.9	33.2	55.1	3.0	1.023	3.5	62

#### **NOTES**

- Data not available.
- 1 For statistical purposes, the data for Netherlands do not include this area.
- 2 Including Christmas Island, Cocos (Keeling) Islands and Norfolk Island.
- 3 Including Nagorno-Karabakh.
- 4 For statistical purposes, the data for China do not include Hong Kong and Macao, Special Administrative Regions (SAR) of China, and Taiwan Province of China.
- 5 As of 1 July 1997, Hong Kong became a Special Administrative Region (SAR) of China. For statistical purposes, the data for China do not include this area.
- 6 As of 20 December 1999, Macao became a Special Administrative Region (SAR) of China. For statistical purposes, the data for China do not include this area.
- 7 Refers to the whole country.
- 8 For statistical purposes, the data for Denmark do not include Faroe Islands or Greenland.
- 9 Including Åland Islands.
- 10 For statistical purposes, the data for France do not include French Guiana, French Polynesia, Guadeloupe, Martinique, Mayotte, New Caledonia, Réunion, Saint Pierre and Miquelon, Saint Barthélemy, Saint Martin (French part) or Wallis and Futuna Islands.
- 11 For statistical purposes, the data for France do not include this area.
- 12 Including Abkhazia and South Ossetia.
- 13 For statistical purposes, the data for United States of America do not include this area
- 14 Including Sabah and Sarawak.
- 15 Including Agalega, Rodrigues and Saint Brandon.
- 16 Including Transnistria
- 17 For statistical purposes, the data for Netherlands do not include Aruba, Bonaire, Sint Eustatius and Saba, Curação or Sint Maarten (Dutch part).
- 18 For statistical purposes, the data for New Zealand do not include Cook Islands, Niue or Tokelau.
- 19 Including Svalbard and Jan Mayen Islands.
- 20 Including East Jerusalem.
- 21 Including Kosovo.
- 22 Including Canary Islands, Ceuta and Melilla.
- 23 Including Zanzibar.
- 24 Refers to the territory of the country at the time of the 2001 census.
- 25 Refers to the United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland. For statistical purposes, the data for United Kingdom do not include Anguilla, Bermuda, British Virgin Islands, Cayman Islands, Channel Islands, Falkland Islands (Malvinas), Gibraltar, Isle of Man. Montserrat. Saint Helena or Turks and Caicos Islands.
- 26 For statistical purposes, the data for United States of America do not include American Samoa, Guam, Northern Mariana Islands, Puerto Rico or United States Virgin Islands.

#### **DEFINITIONS OF THE INDICATORS**

Total population: Estimated size of national populations at mid-year.

**Average annual rate of population change:** Average exponential rate of growth of the population over a given period, based on a medium variant projection.

**Population aged 0-14, per cent:** Proportion of the population between age 0 and age 14.

**Population aged 10-24, per cent:** Proportion of the population between age 10 and age 24.

**Population aged 15-64, per cent:** Proportion of the population between age 15 and age 64

**Population aged 65 and older, per cent:** Proportion of the population aged 65 and older

Sex ratio at birth: Number of live male births per one live female birth

**Total fertility rate:** Number of children who would be born per woman if she lived to the end of her childbearing years and bore children at each age in accordance with prevailing age-specific fertility rates.

**Life expectancy at birth:** Number of years newborn children would live if subject to the mortality risks prevailing for the cross section of population at the time of their birth.

#### MAIN DATA SOURCES

Total population: United Nations Population Division.

**Average annual rate of population change:** UNFPA calculation based on data from United Nations Population Division.

**Population aged 0-14, per cent:** UNFPA calculation based on data from United Nations Population Division.

**Population aged 10-24, per cent:** UNFPA calculation based on data from United Nations Population Division.

**Population aged 15-64, per cent:** UNFPA calculation based on data from United Nations Population Division.

**Population aged 65 and older, per cent:** UNFPA calculation based on data from United Nations Population Division.

Sex ratio at birth: Chao, F., Gerland, P., Cook, A. R., & Alkema, L. (2019). Systematic assessment of the sex ratio at birth for all countries and estimation of national imbalances and regional reference levels. Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America, 116(27), 13700. https://doi.org/10.1073/pnas.1908359116

Total fertility rate: United Nations Population Division.

Life expectancy at birth: United Nations Population Division.

### Technical notes

The statistical tables in the *State of World Population 2020* include indicators that track progress toward the goals of the Framework of Actions for the follow-up to the Programme of Action of the International Conference on Population and Development (ICPD) and the Sustainable Development Goals (SDGs) in the areas of maternal health, access to education, and reproductive and sexual health. In addition, these tables include a variety of demographic indicators. The statistical tables support UNFPA's focus on progress and results towards delivering a world where every pregnancy is wanted, every birth is safe and every young person's potential is fulfilled.

Different national authorities and international organizations may employ different methodologies in gathering, extrapolating or analysing data. To facilitate the international comparability of data, UNFPA relies on the standard methodologies employed by the main sources of data. In some instances, therefore, the data in these tables differ from those generated by national authorities. Data presented in the tables are not comparable to the data in previous State of World Population reports due to regional classifications updates, methodological updates and revisions of time series data.

The statistical tables draw on nationally representative household surveys such as Demographic and Health Surveys (DHS) and Multiple Indicator Cluster Surveys (MICS), United Nations organizations' estimates and inter-agency estimates. They also include the latest population estimates and projections from World Population Prospects: The 2019 revision, and Model-based Estimates and Projections of Family Planning Indicators 2020 (United Nations Department of Economic and Social Affairs, Population Division). Data are accompanied by definitions, sources and notes. The statistical tables in *State of World Population 2020* generally reflect information available as of March 2020.

#### Indicators for monitoring ICPD goals

#### Sexual and reproductive health and rights

# Maternal mortality ratio (MMR) (deaths per 100,000 live births) and range of MMR uncertainty (UI 80%), lower and upper estimates.

Source: United Nations Maternal Mortality Estimation Inter-agency Group (MMEIG). MMR indicates the number of maternal deaths during a given time period per 100,000 live births during the same time period. The estimates are produced by the MMEIG using data from vital registration systems, household surveys and population censuses. UNFPA, WHO, The World Bank, UNICEF and United Nations Population Division are members of the MMEIG. Estimates and methodologies are reviewed regularly by the MMEIG and other agencies and academic institutions and are revised where necessary as part of the ongoing process of improving maternal mortality data. Estimates should not be compared with previous interagency estimates.

#### Births attended by skilled health personnel, per cent.

Source: Joint global database on skilled attendance at birth, 2020, UNICEF and WHO. Regional aggregates calculated by UNFPA based on data from the joint global database. Percentage of births attended by skilled health personnel (doctor, nurse or midwife) is the percentage of deliveries attended by health personnel trained in providing life-saving obstetric care, including giving the necessary supervision, care and advice to women during pregnancy, labour and the post-partum period; conducting deliveries on their own; and caring for newborns (SDG indicator 3.1.2). Traditional birth attendants, even if they receive a short training course, are not included.

#### Contraceptive prevalence rate, women aged 15-49, any method.

Source: United Nations Population Division. Percentage of women aged 15 to 49 who are currently using any method of contraception. Model-based estimates are based on data that are derived from sample survey reports. Survey data estimate the proportion of all women of reproductive age, and married women (including women in consensual unions), currently using any method of contraception.

#### Contraceptive prevalence rate, women aged 15-49, modern methods.

Source: United Nations Population Division. Percentage of women aged 15 to 49 who are currently using any modern method of contraception. Model-based estimates are based on data that are derived from sample survey reports. Survey data estimate the proportion of all women of reproductive age, and married women (including women in consensual unions), currently using any modern methods of contraception. Modern methods of contraception include female and male sterilization, the intra-uterine device (IUD), the implant, injectables, oral contraceptive pills, male and female condoms, vaginal barrier methods (including the diaphragm, cervical cap and spermicidal foam, jelly, cream and sponge), the lactational amenorrhea method, emergency contraception and other modern methods not reported separately.

#### Unmet need for family planning, women aged 15-49.

Source: United Nations Population Division. Percentage of women aged 15 to 49 who want to stop or delay childbearing but are not using a method of contraception. Model-based estimates are based on data that are derived from sample survey reports. Women who are using a traditional method of contraception are not considered as having an unmet need for family planning. All women or all married and in-union women are assumed to be sexually active and at risk of pregnancy. The assumption of universal exposure to possible pregnancy among all women or all married or in-union women may lead to lower estimates compared to the actual risks among the exposed. It might be possible, in particular at low levels of contraceptive prevalence, that when contraceptive prevalence increases, unmet need for family planning also increases. Both indicators, therefore, need to be interpreted together.

# Proportion of demand for family planning satisfied by modern methods, women aged 15-49.

Source: United Nations Population Division. Percentage of total demand for family planning among women aged 15 to 49 that is satisfied by the use of modern contraception (SDG indicator 3.7.1). This indicator is calculated by dividing modern contraceptive prevalence by total demand for family planning. Total demand for family planning is the sum of contraceptive prevalence and unmet need for family planning.

# Decision making on sexual and reproductive health and reproductive rights, per cent.

Source: UNFPA. Percentage of women aged 15 to 49 years who are married or in a union, who make their own decisions on three areas—their health care, use of contraception and sexual intercourse with their partners (SDG indicator 5.6.1).

# Laws and regulations that guarantee access to sexual and reproductive health care, information and education, per cent.

Source: UNFPA. The extent to which countries have national laws and regulations that guarantee full and equal access to women and men aged 15 years and older to sexual and reproductive health care, information and education (SDG indicator 5.6.2).

#### Adolescents and youth

#### Adolescent birth rate per 1,000 girls aged 15-19.

Source: United Nations Population Division. Number of births per 1,000 adolescent girls aged 15 to 19 years (SDG indicator 3.7.2). The adolescent birth rate represents the risk of childbearing among adolescent girls aged 15 to 19 years. For civil registration, rates are subject to limitations which depend on the completeness of birth registration, the treatment of infants born alive but who die before registration or within the first 24 hours of life, the quality of the reported information relating to the age of the mother, and the inclusion of births from previous periods. The population estimates may suffer from limitations connected to age misreporting and coverage. For survey and census data, both the numerator and denominator come from the same population. The main limitations concern age misreporting, birth omissions, misreporting the date of birth of the child and sampling variability in the case of surveys.

#### Child marriage by age 18, per cent.

Source: UNICEF. Regional aggregates calculated by UNFPA based on data from UNICEF. Proportion of women aged 20 to 24 years who were married or in a union before the age of 18 (SDG indicator 5.3.1).

#### Female genital mutilation prevalence among girls aged 15-19, per cent.

Source: UNFPA. Proportion of girls aged 15 to 19 years who have undergone female genital mutilation (SDG indicator 5.3.2).

#### Adjusted net enrolment rate, primary education, per cent.

Source: UNESCO Institute for Statistics (UIS). Percentage of children of the official primary age group who are enrolled in primary and secondary education.

#### Gender parity index, primary education (2009-2019).

Source: UNESCO Institute for Statistics (UIS). Ratio of female to male values of adjusted primary school net enrolment ratio.

#### Net enrolment rate, secondary education, per cent (2009-2019).

Source: UNESCO Institute for Statistics (UIS). Percentage of children of the official secondary age group who are enrolled in secondary education.

#### Gender parity index, secondary education (2009-2019).

Source: UNESCO Institute for Statistics (UIS). Ratio of female to male values of secondary school net enrolment ratio.

#### **Demographic indicators**

#### **Population**

#### Total population in millions.

Source: United Nations Population Division. Estimated size of national populations at mid-year.

#### **Population change**

#### Average annual rate of population change, per cent.

Source: UNFPA calculation based on data from the United Nations Population Division. Average exponential rate of growth of the population over a given period, based on a medium variant projection.

#### **Population composition**

#### Population aged 0-14, per cent.

Source: UNFPA calculation based on data from the United Nations Population Division. Proportion of the population between age 0 and age 14.

#### Population aged 10-24, per cent.

Source: UNFPA calculation based on data from the United Nations Population Division. Proportion of the population between age 10 and age 24.

#### Population aged 15-64, per cent.

Source: UNFPA calculation based on data from the United Nations Population Division. Proportion of the population between age 15 and age 64.

#### Population aged 65 and older, per cent.

Source: UNFPA calculation based on data from the United Nations Population Division. Proportion of the population aged 65 and older.

#### Sex ratio

#### Sex ratio at birth, per female birth.

Source: Chao and others, 2019. "Systematic Assessment of the Sex Ratio at Birth for all Countries and Estimation of National Imbalances and Regional Reference Levels." *Proceedings of the National Academy of Sciences* 116(27); 13700. Number of live male births per one live female birth.

#### **Fertility**

#### Total fertility rate, per woman.

Source: United Nations Population Division. Number of children who would be born per woman if she lived to the end of her childbearing years and bore children at each age in accordance with prevailing age-specific fertility rates.

#### Life expectancy

#### Life expectancy at birth, years.

Source: United Nations Population Division. Number of years newborn children would live if subject to the mortality risks prevailing for the cross section of population at the time of their birth.

#### Regional classifications

UNFPA averages presented at the beginning of the statistical tables are calculated using data from countries and areas as classified below.

#### Arab States Region.

Algeria; Djibouti; Egypt; Iraq; Jordan; Lebanon; Libya; Morocco; Oman; Palestine; Somalia; Sudan; Syrian Arab Republic; Tunisia; Yemen.

#### Asia and the Pacific Region.

Afghanistan; Bangladesh; Bhutan; Cambodia; China; Cook Islands; Fiji; India; Indonesia; Iran (Islamic Republic of); Kiribati; Korea, Democratic People's Republic of; Lao People's Democratic Republic; Malaysia; Maldives; Marshall Islands; Micronesia (Federated States of); Mongolia; Myanmar; Nauru; Nepal; Niue; Pakistan; Palau; Papua New Guinea; Philippines; Samoa; Solomon Islands; Sri Lanka; Thailand; Timor-Leste, Democratic Republic of; Tokelau; Tonga; Tuvalu; Vanuatu; Viet Nam.

#### Eastern Europe and Central Asia Region.

Albania; Armenia; Azerbaijan; Belarus; Bosnia and Herzegovina; Georgia; Kazakhstan; Kyrgyzstan; Moldova, Republic of Serbia; Tajikistan; North Macedonia; Turkey; Turkmenistan; Ukraine; Uzbekistan.

#### East and Southern Africa Region.

Angola; Botswana; Burundi; Comoros; Congo, Democratic Republic of the; Eritrea; Eswatini; Ethiopia; Kenya; Lesotho; Madagascar; Malawi; Mauritius; Mozambique; Namibia; Rwanda; South Africa; South Sudan; Tanzania, United Republic of; Uganda; Zambia; Zimbabwe.

#### Latin America and the Caribbean Region.

Anguilla; Antigua and Barbuda; Argentina; Aruba; Bahamas; Barbados; Belize; Bermuda; Bolivia (Plurinational State of); Brazil; British Virgin Islands; Cayman Islands; Chile; Colombia; Costa Rica; Cuba; Curaçao; Dominica; Dominican Republic; Ecuador; El Salvador; Grenada; Guatemala; Guyana; Haiti; Honduras; Jamaica; Mexico; Montserrat; Nicaragua; Panama; Paraguay; Peru; Saint Kitts and Nevis; Saint Lucia; Saint Vincent and the Grenadines; Sint Maarten; Suriname; Trinidad and Tobago; Turks and Caicos Islands; Uruguay; Venezuela (Bolivarian Republic of).

#### West and Central Africa Region.

Benin; Burkina Faso; Cameroon, Republic of; Cape Verde; Central African Republic; Chad; Congo, Republic of the; Côte d'Ivoire; Equatorial Guinea; Gabon; Gambia; Ghana; Guinea; Guinea-Bissau; Liberia; Mali; Mauritania; Niger; Nigeria; São Tomé and Principe; Senegal; Sierra Leone; Togo.

More developed regions are intended for statistical purposes and do not express a judgment about the stage reached by a particular country or area in the development process, comprising United Nations Population Division regions Europe, Northern America, Australia/New Zealand and Japan.

**Less developed regions** are intended for statistical purposes and do not express a judgment about the stage reached by a particular country or area in the development process, comprising all United Nations Population Division regions of Africa, Asia (except Japan), Latin America and the Caribbean plus Melanesia, Micronesia and Polynesia.

The least developed countries, as defined by the United Nations General Assembly in its resolutions (59/209, 59/210, 60/33, 62/97, 64/L.55, 67/L.43, 64/295 and 68/18), included 47 countries (as of December 2018): 33 in Africa, 9 in Asia, 4 in Oceania and 1 in Latin America and the Caribbean—Afghanistan; Angola; Bangladesh; Benin; Bhutan; Burkina Faso; Burundi; Cambodia; Central African Republic; Chad; Comoros; Congo, Democratic Republic of the; Djibouti; Eritrea; Ethiopia; Gambia; Guinea; Guinea-Bissau; Haiti; Kiribati; Lao People's Democratic Republic; Lesotho; Liberia; Madagascar; Malawi; Mali; Mauritania; Mozambique; Myanmar; Nepal; Niger; Rwanda; São Tomé and Principe; Senegal; Sierra Leone; Solomon Islands; Somalia; South Sudan; Sudan; Tanzania, United Republic of; Timor-Leste; Togo; Tuvalu; Uganda; Vanuatu; Yemen; Zambia. These countries are also included in the less developed regions. Further information is available at http://unohrlls.org/about-ldcs/.

『世界人口白書 2020』の日本語抜粋版および英語完全版は下記の QR コードよりダウンロードできます。



#### 日本語版監修:

阿藤 誠 (国立社会保障・人口問題研究所名誉所長)

#### 日本語版制作:

国連人口基金 東京事務所 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-70

国連大学ビル 7階

https://tokyo.unfpa.org tokyo.office@unfpa.or.jp







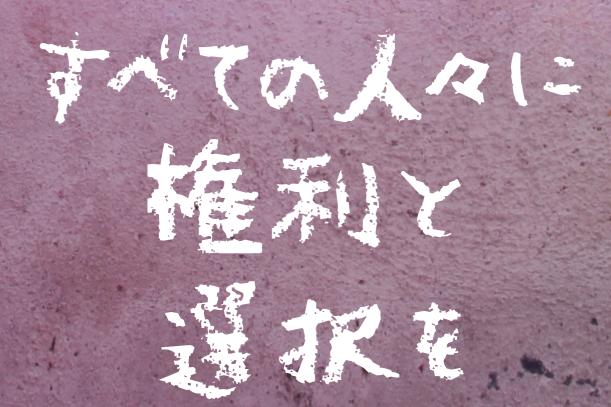
Facebook



Twitter



Instagram





国連人口基金